

第3章 整備の方向性の検討

3-1 上位・関連計画にみる計画地

上位・関連計画における計画地の位置づけ（1-3-4 上位・関連計画参照）をまとめると以下のようになる。

○「御所市第5次総合計画」（平成23年10月策定）

＜土地利用構想における位置づけ＞

- ・市の中心部にある歴史的に貴重な巨勢山古墳群の地域は、歴史を感じるレクリエーションの場としての利用を図る。
- ・国道24号・309号、御所南IC周辺は沿道サービスエリアとしての利便性の充実を図る。
- ・巨勢山古墳群周辺の丘陵地は古よりの緑豊かな自然を感じる地域としての自然景観の保全、平野部に広がる農地は良好な農地の保全を図る。

＜市街地外周部の魅力あるまちづくり・観光の振興・企業誘致の推進における位置づけ＞

- ・自然資源、景観、まち並み、歴史・文化資源、伝統行事などの保護・保存に努めるとともに、観光地周辺の道路や案内板の整備、トイレや休憩施設の整備を図り、観光客に優しいまちづくりを推進する。
- ・御所南IC周辺エリアの有効利用を模索し、企業誘致とそれに伴う雇用の拡大を図る。

＜地域文化の継承と発信における位置づけ＞

- ・史跡巨勢山古墳群を中心とする史跡公園の整備を進める。また、市内に所在する考古・歴史資料を集め、歴史学習の場となる歴史資料館（埋蔵文化財センター併設）を推進する。

○「御所市都市計画マスタープラン」（平成23年4月策定）

＜京奈和自動車道御所南IC活用策における位置づけ＞

- ・御所南ICから国道309号周辺（開発検討区域）は、御所南ICを観光の玄関口として、自然景観・歴史的遺産の保全策とともに来訪者を誘導するような開発を図る。
- ・御所南IC周辺の田園集落（宅地開発緩和区域）は、優良な農地と居住地が調和するゾーンとして宅地開発を緩和する。
- ・国道24号・309号結節的周辺（沿道利用検討地区）は、まちづくりに寄与する計画的な沿道利用を検討する。

《上位・関連計画にみる計画地の位置づけ、まちづくりの方向》

- ・巨勢山古墳群等の史跡公園の整備
- ・歴史学習の場となる歴史資料館等の整備
- ・御所南IC等の周辺交通拠点に、案内板、トイレ、休憩施設等観光客利便施設、沿道サービス施設の整備
- ・御所南IC周辺の田園景観に調和した宅地化・企業の誘致、農地の保全、丘陵地の自然景観の保全

これら方向性については、計画地の史跡公園化を進める中で、関係機関等と十分な調整を図りながら、あくまで文化財に軸足を置いた整備のあり方を検討する必要がある。

3-2 周辺開発状況等に見る計画地

<周辺道路状況> (図107・図108)

計画地における道路は、史跡宮山古墳の北側を国道309号が東西に、史跡巨勢山古墳群の西側を国道24号が南北に走り、史跡巨勢山古墳群の史跡指定地の東端を南北方向に京奈和自動車道が建設中である。

国道309号は、国道24号や京奈和自動車道と連結する広域道路であり、都市計画道路室富田線として将来幅員16mに拡幅整備されることが平成3年(2001)に計画決定されている。しかしながらその路線は史跡宮山古墳の周濠と周堤の位置に相当しており、しかも陪冢であるネコ塚古墳と宮山古墳を分断する形で走っているため、現状の道路を拡幅整備することは文化財保護上大きな問題があり到底容認できることではない。

一方、現在建設中の京奈和自動車道については、計画地近くに御所南ICが整備中であり、IC開通後は計画地へのアクセスがさらに向上するとともに、近接する国道309号や国道24号を利用する車両が増加するものと予想される。よってこれら道路については文化財の保護と活用の点から、アクセス道路としてふさわしい路線計画等の見直しや、誘導・沿道サービス施設等の整備など、計画地への玄関口として今後有効に活用していくことが望まれる。

<土地利用の動向> (図107・図108)

計画地は一部に市街化区域が見られるものの大半は市街化調整区域で、基本的には市街化を抑制する区域となっている。国道24号の東側から巨勢山丘陵西裾部は市街化区域(工業系用途)に指定されている。史跡巨勢山古墳群南西の工業専用地域は、鋳物や機械部品等の工場が集積する御所市工業団地で、その北方は採土・採石場などがある。また、計画地の南側に広がる巨勢山丘陵は、西側に史跡巨勢山古墳群が、その南東にゴルフ場があり、丘陵南の総合運動公園とともにスポーツ・レクリエーション施設用地として利用されている。

今後の土地利用の動向としては、京奈和自動車道及び御所南ICの整備に伴い新たな開発が予想される。計画地及び周辺域では開発行為の規制緩和が進んでおり、御所南ICを中心とする京奈和自動車道周辺及び国道24号・309号交差点の市街化区域隣接地が、都市計画法34条第11号に基づく市街化調整区域における新たな住宅等の立地をみとめる区域(秋津A・B・C地区)に指定されている。当該地では住宅以外にも店舗や倉庫、地域産業振興の工場などの用途の建築物の立地も認められている。この区域には史跡宮山古墳の周濠も含まれており、開発行為に対しては文化財保護の面から調整が必要である。

また採土・採石場については、土石採取終了後は土地利用上の改変が予測される。

これらの新たな開発が予想される地域については、文化財の保存・活用や景観の保全を念頭に置おいて、関係者等の協力を得ながら、より詳細な土地利用計画を検討・立案する必要がある。

なお、計画地の巨勢山古墳群の史跡指定地を含む丘陵部一帯は、開発行為に対して一定の規制がある国見山景観保全地区に指定されており、またこの地区の北側は農業振興地域の農用地区域に指定されていることもあり、大きな土地利用上の改変はないものと予測される。

<御所市の歴史的文化的拠点形成のための各種開発の連携と調整の必要性>

以上のように、計画地は史跡宮山古墳を始めとする豊かな歴史と古くからの集落や農地ならなる地域として良好な景観を有しているが、今後国道309号沿いの沿道宅地規制緩和地域などにおいて宅地化が進む可能性があり、また工業系用途地域においては京奈和自動車道の整備に伴い、

流通系の施設等の立地が予測される。

そのため土地利用上の開発のあり方については、良好な歴史的文化的資源の保存・活用や景観の保全を前提にすることが重要である。

とりわけ都市計画道路（国道309号）の拡幅整備計画については、宮山古墳とその陪冢ネコ塚古墳をさらに分断することになるため、ネコ塚古墳の北側に路線変更するなどの調整が都市計画サイドとの間で不可欠となる。

《開発動向と今後の調整・検討事項》

- ・ 国道309号の拡幅整備計画→史跡宮山古墳の周濠及び陪冢のネコ塚古墳と重複
- ・ 市街化調整区域で新たな住宅等の立地を認める区域の指定→史跡宮山古墳の周濠と重複
- ・ 御所南IC周辺への企業誘致、採土・採石場の跡地利用

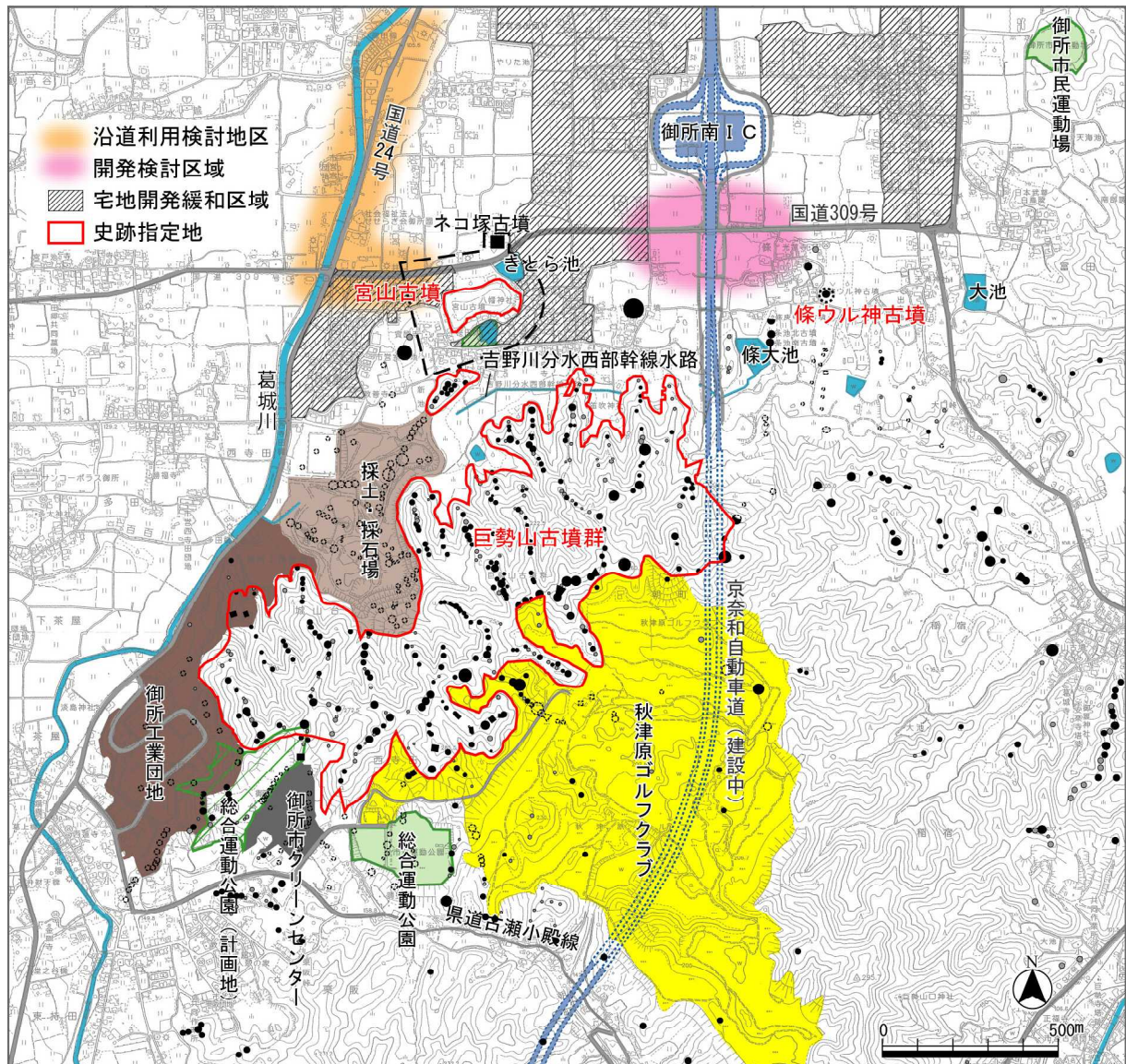


図107 周辺開発状況図 1

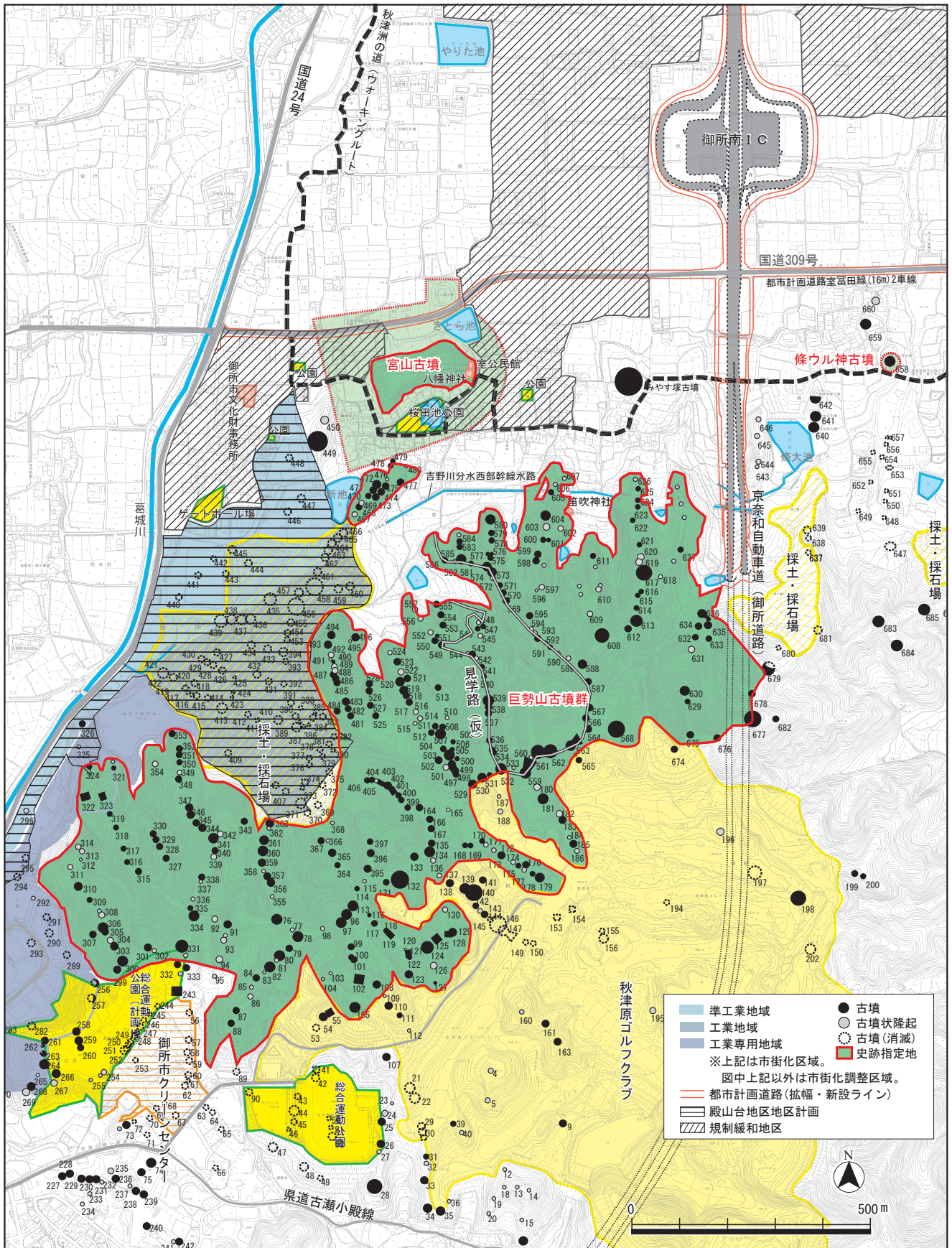


図108 周辺開発状況図2

3-3 計画地の位置づけ

史跡宮山古墳や史跡巨勢山古墳群は、その文化財としての重要性から国の史跡に指定されている。また、巨大な石室と石棺を有する條ウル神古墳もその重要性から国史跡に指定の予定である。これら史跡宮山古墳等のもつ価値や立地条件から、計画地は以下のように位置づけることができる。

○ 我が国の歴史を物語る貴重な歴史的文化遺産を有する空間

計画地に所在する史跡宮山古墳、條ウル神古墳は、『古事記』や『日本書紀』に登場する御所市域を本拠とした葛城氏と巨勢氏の首長の墓と推定されている古墳である。史跡宮山古墳は、5世紀初めに限れば奈良県で最大（全国では18番目）の規模を誇る古墳である。さらに自由見学できる数少ない大規模古墳の中で、竪穴式石室内に長持形石棺が納められた状態を見学できる唯一の古墳である。條ウル神古墳は、日本最大級の規模の石室、石棺が遺存している。また史跡巨勢山古墳群は総数700基（史跡指定範囲には約300基）を超えるわが国有数の群集墳であり、当時の政治動向、集団の動向を知る上で重要な遺跡である。

このように、計画地は地域の歴史はもとより、我が国の国家形成期における政治史や社会史を語る上で欠くことのできない、貴重な歴史的文化遺産を有する空間として位置づけられる。

○ 地域の歴史や文化の核的空間

御所市内には史跡宮山古墳をはじめとする原始時代の遺跡、歴史時代の遺跡や歴史的建造物・歴史資料など多くの文化財が残されており、国指定の文化財は16件を数える。そのなかでも計画地に所在する古墳は、その規模、内容、遺跡の集中度等からして、御所市はもとより我が国の古墳時代を代表する遺跡の集積地として貴重な空間となっている。また視覚的にも史跡宮山古墳は地域幹線道の国道沿いにおいて、巨大な緑のかたまりとして地域のランドマークともなっている。史跡巨勢山古墳群は比高100m以上の尾根上にあり、史跡宮山古墳はもとより奈良盆地、金剛・葛城山を一望できる眺望点ともなっている。

このように全国的にみても貴重な遺跡の集合体ともいえる計画地は、地域の歴史・文化的環境形成における核的空間として位置づけることができる。

○ 御所市における文化財とふれあえる公園空間

御所市は奈良盆地の一画をなす平野や葛城山・金剛山等が連なる金剛山地、巨勢山丘陵といった変化に富んだ自然の風景や田園景観などが、地域の自然資源や人文資源として観光などに活かされている。その一方では地域住民の憩いの場となる身近な公園の充実が求められている。特に史跡巨勢山古墳群が築かれた巨勢山丘陵は、奈良盆地を眼下に金剛山地等を間近に見渡すことができ、御所市における文化財とふれあえる憩いと潤いの場として活用することが可能であり、市民の憩いや交流のための公園空間として位置づけることができる。

○ 歴史を活かした観光・レクリエーション空間

御所市では「御所市第5次総合計画」（平成23年10月策定）において、まちづくりの理念のひとつとして「文化・産業を育み活力を生み出すまちづくり」を掲げている。その主要施策のひとつとして、「史跡巨勢山古墳群を中心とする史跡公園の整備を進め……歴史資料館を建設する」としており、土地利用の方針では、「歴史を感じるレクリエーションの場」として利用を図っている。このように、御所市の将来計画においても、史跡等の歴史資源を活用した観光・レクリエーション区域として位置づけられており、御所市の活力あるまちづくりの実践の地といえる。

3-4 整備の基本的考え方

計画地の位置づけや立地環境、敷地条件を踏まえ、計画地の整備方針を以下のように設定する。

○ 遺跡と遺跡をとりまく環境の保存を図る

ー大前提としての遺構の保存と周辺環境を保全するー

- ・文化財保存の大前提である現存遺構を保存するために、適切な遺構の保存措置等によって保存環境の改善を図る。
- ・遺跡の保存を確固たるものにするために、未指定古墳である條ウル神古墳の史跡指定を推進する。また、御所市最大の古墳である史跡宮山古墳の周濠部や、陪塚であるネコ塚古墳の保存を図るために、所有者等の理解と協力のもとに史跡の追加指定を推進する。
- ・史跡宮山古墳等の周辺域は農業振興地域で農地を主体とした集落が点在する地である。しかし、国道309号や国道24号が隣接して通過し、また高規格道路である京奈和自動車道の整備地域にもあたることから、開発圧力が今後強まるものと想定される。そのため、現状の田園景観等の保全に向けて、所有者、関係機関等との協力、調整を行うなど、古墳をとりまく周辺環境の保全を図る。特に史跡宮山古墳と一体的な価値をもつ周濠・周堤、陪塚のネコ塚古墳の保護のために国道309号の付け替えを関係機関等と協議する。

○ 身近な文化財としての整備を図る

ー遺跡の特徴・価値をわかりやすく活用整備するー

- ・史跡宮山古墳、史跡巨勢山古墳群、條ウル神古墳は、古代の有名氏族である葛城氏などに関連する古墳である。史跡宮山古墳は全長238mと全国有数の規模を有し、かつ、竪穴式石室内に長持形石棺が納められた状態で見学できる唯一の古墳である。史跡巨勢山古墳群は700基以上という大規模群集墳で様々な形式の古墳が見学できる。條ウル神古墳は全国的にみても最大級の規模を誇る石室・石棺を有し、未発掘であるため、今後多くの知見が得られる可能性のある古墳である。
- ・以上のような文化財としての価値を人々に知ってもらうため、計画的な発掘調査等各種調査・研究を行い、整備に反映する。また各種調査・研究によって蓄積した成果は、様々な手段によって情報の発信を図る。
- ・「石室・石棺を自由見学できる大規模な前方後円墳」、「日本有数の規模を誇る石室・石棺を有する古墳」、「日本有数の数と多様な埋葬形態からなる群集墳」といった計画地の古墳の特徴・価値を活かし、来訪者にわかりやすい身近な文化財としての整備を図る。
- ・古墳をはじめとして原始・古代の遺跡が数多く残る御所市においても、特に貴重な遺跡が集中する計画地の古墳の概要・歴史的背景等を解説し、出土した貴重な遺物などを展示・収蔵する歴史博物館（重要文化財等の保管・公開が可能な施設）および案内・情報拠点（ガイダンス施設等）の整備を図る。また地域歴史学習の現地学習の場としての活用を図る。

○ 歴史文化観光拠点を形成する

－文化財を活かした公園・観光レクリエーション空間として整備する－

- ・自然の丘陵上や丘陵先端部を造成して築かれた古墳の特徴を活かし、墳頂や山稜部等からの周辺への展望ができる視点場としての場づくりを図る。
- ・広域交通網を活かし関係機関の協力を仰ぎ、公園の整備や「道の駅」の誘致を図る。近畿圏はもとより関空からのアクセス至便な地であることの周知を図るとともに、全国からの多数の来訪者の受け入れ施設の整備を図る。
- ・未整備のために十分活かされていない緑地帯としての丘陵部（史跡巨勢山古墳群）を、既存樹種の林相改良や園路整備などによって散策空間、自然ふれあい空間として活用を図る。
- ・古墳の整備や、博物館・ガイダンス施設等の歴史情報拠点の整備によって、観光・レクリエーション拠点の場づくりを行う。
- ・また計画地周辺に分布する関連遺跡や観光資源などとの有機的連係（道路、情報等）や視覚的ネットワークの構築を図る。

3-5 導入が想定される施設等

整備の基本的考え方から計画地および周辺において導入が想定される施設としては以下のものがあげられる。

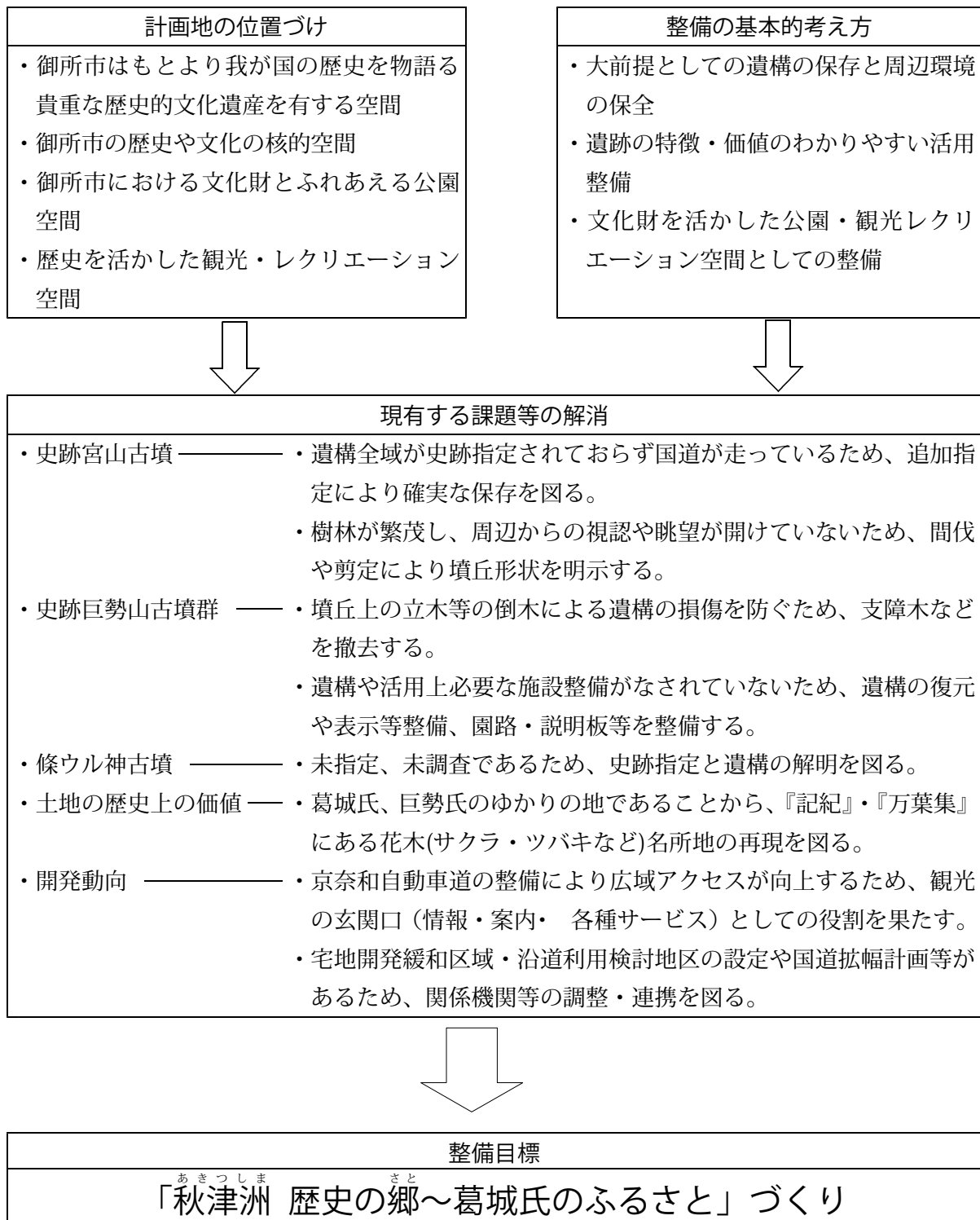
表7 導入想定施設

施設区分	名称等	内容	
遺構整備施設	墳丘形態	墳丘形態の復元、修復、表示等整備	
	外表施設	葺石	復元整備や葺石遺構の展示施設
		埴輪	復元レプリカの設置や樹立位置の露出表示
	主体部	石室・石棺	遺構の展示施設としての整備やレプリカの設置、あるいは位置・規模形状の平面的表示
		墓壙	位置・規模・形状の平面的もしくは半立体的整備
		副葬品	レプリカの設置や写真による表示
学習・案内施設	歴史博物館（仮称） ガイダンス施設	史跡宮山古墳、史跡巨勢山古墳群、條ウル神古墳などの築造の背景と遺跡内容・特徴・他の古墳との比較についての解説(解説は映像と音響設備を利用したわかり易い手法を用いる) 遺物の展示・収蔵室、研修室、案内コーナー、休憩コーナー、便所等	
	縮小模型	史跡宮山古墳などの古墳・古墳群や周辺地形などの縮小模型	
	案内板・説明板	周辺諸施設を含む案内板や整備された遺構の説明板	
園路広場施設	園路	見学用園路(適宜階段設置)、管理用園路	
	学習体験広場	野外での学習や歴史体験が可能な広場	
	展望広場	良好な眺望や休息が可能な広場	
休養施設	アズマヤ、ベンチ等	来訪者の休息等のための施設	
便益施設	便所、駐車場等	来訪者の便益性向上のための施設	
安全管理施設	法面保護施設	土砂崩落防止等、防災上の施設	
	柵・車止等	安全管理上必要な施設	
修景施設	植栽	修景上必要な植栽等	
	林相改良	史跡巨勢山古墳群等の既存木（人工林）の伐採と郷土樹種・いわれのある樹種などの導入	
ネットワーク施設等	ネットワーク道路	道標、サイン等を有する道路	
	情報案内所	ガイドブック、パンフレット等提供	
	道の駅	地場産品展示・販売等	

第4章 基本計画

4-1 整備目標

計画地の位置づけならびに整備の基本的考え方および各古墳・古墳群の現有する保存・活用上の課題を踏まえ、計画地の整備目標を以下のように設定する。



「秋津洲 歴史の郷～葛城氏のふるさと」では、

- ・地域の人達はもとより全国からの多くの来訪者があり、様々な行事を通じて人々の交流がある。
- ・古墳など文化財の総合的調査研究が継続的かつ組織的になされており、来訪者はこれらに参加でき、またその様子および成果が見学できる。
- ・保存・活用整備された施設としての史跡があり、来訪者は史跡を知り、学ぶなど文化財とふれあうことができる。史跡見学の中心となる各古墳・古墳群は、規模の雄大さや、古墳の外部・内部（墳丘形状と、内部主体）の構造、立地環境といったそれぞれの古墳の特徴が現地で見え、わかりやすく表現されており、他地域で見ることのできない古墳を現地で間近に見学することができる。
- ・古墳や地域の歴史について、小学生にも理解できる施設があり、来訪者は葛城地域の歴史・文化・自然を知り、学ぶことができる。
- ・秋津地区を中心とする古代から現代に至る歴史や変遷、地域にかかわる物語などについて知ることのできる施設があり、来訪者は地域の歴史や文化を学ぶことができる。
- ・良好な眺望や豊かな自然を満喫できる休養施設や、便益施設のある文化観光・レクリエーションの場があり、来訪者は終日時を過ごすことができる。
- ・京奈和自動車道御所南ICや国道24号・国道309号に近接する地（玄関口）には、「秋津洲 歴史の郷～葛城氏のふるさと」の展示品ともいえる文化財や諸施設の配置と構成、あるいは内容を容易に知ることができる施設やセンター的機能を有する学習・情報拠点（歴史博物館及びガイダンス施設等）やツール(総合案内板、パンフレットなど)があり、来訪者は興味ある各施設やテーマを選択、見学できる。またボランティアガイドなどによる人的案内の拠点機能もある。
- ・情報拠点周辺には道の駅などの来訪者の便益施設がある。
- ・情報拠点（歴史博物館及びガイダンス施設等）では、古墳出土品等の貴重な遺物等や復元品などの展示、デジタル展示等による往時の景観の復元等がなされ、より古墳の全貌を理解することができる。
- ・整備された文化財や観光レクリエーション施設は歴史散策道路(葛城氏・巨勢氏ゆかりの古墳群散策コース)や自然散策路(史跡巨勢山古墳群登山散策コース)および、葛城の道など市内各地を巡るハイキングルートなどもネットワークされており、来訪者は展示物を順次見学するように沿道沿いに展開する歴史的資源を巡ることができる。
- ・さらにこれら散策コースは、周辺の文化財など諸資源と、史跡宮山古墳や金剛・葛城山、奈良盆地を見晴らす山頂からの眺望点や、平野部から史跡宮山古墳などを見通すビスタポイントともネットワークされており、来訪者は歴史的な花木に彩られた山野や平野部を散策しながら地域の原風景を想起することができる。
- ・御所市民は、豊かな文化財や自然の中で生活しているという誇りや自負を持ち、郷土愛を育むことができる。

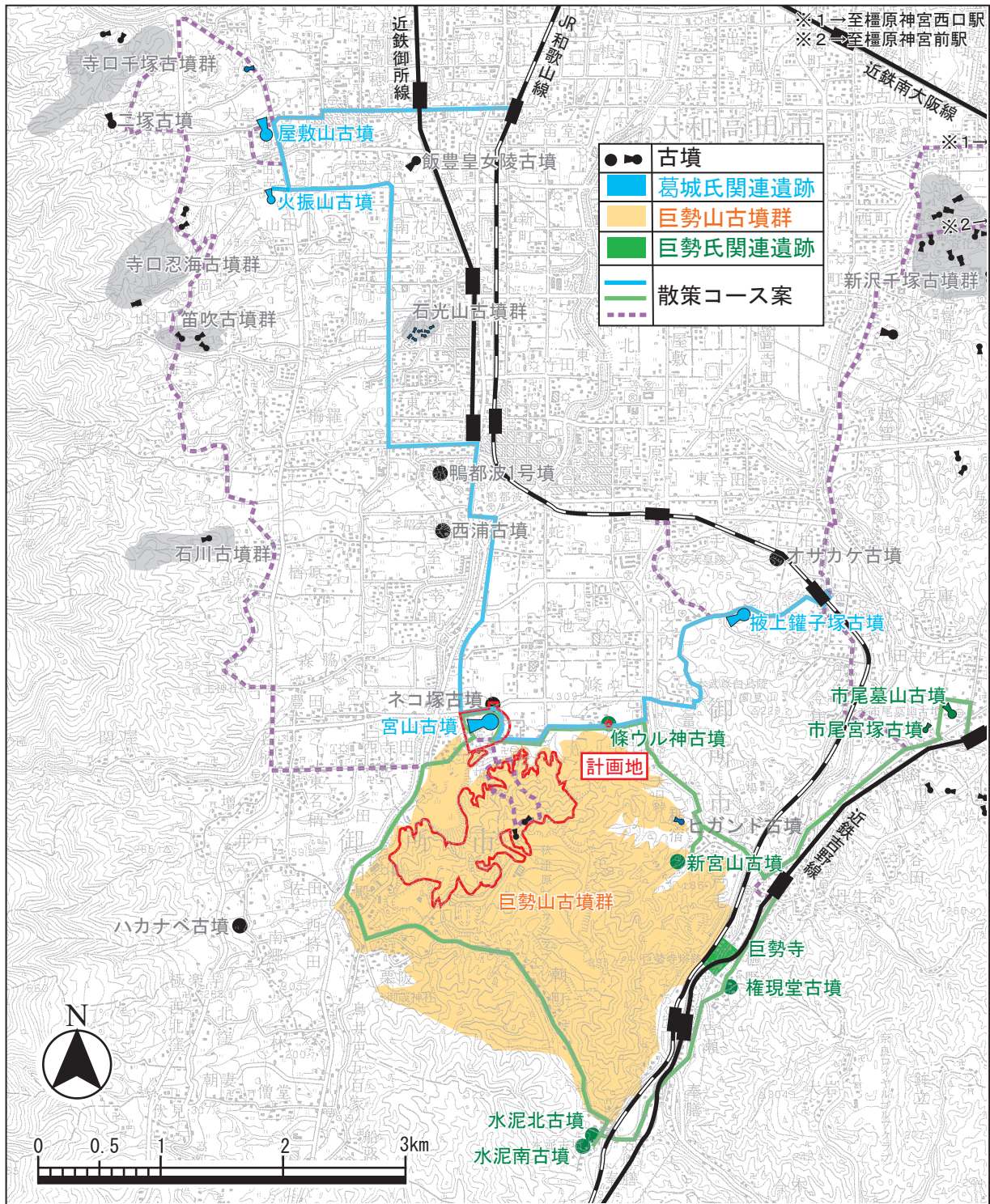


図109 計画地及び周辺関連古墳等ネットワーク動線案

4-2 地区区分と地区別整備計画

計画地は、巨勢山丘陵の北西端およびその西側から北側にかけての裾部の平坦地からなり、東側、南側は丘陵地である。また計画地は、遺構の分布状況はもとより地形、周辺からのアクセス条件、土地利用などにおいて差異があり、さらに導入が想定される整備施設は、その内容により配置箇所が限定される。

以上のような状況を踏まえ、ここでは計画地における地区毎の特性により地区区分を行い、各地区の整備計画を示す。

4-2-1 地区区分

計画地を遺跡の分布状況や史跡指定地から大きく史跡宮山古墳地区、巨勢山古墳群地区、條ウル神古墳地区の3地区に区分し、さらにこれらの地区を細分することにする。

表8 地区区分と地区の概要

区 分	細 分	概 要
宮山古墳地区	宮山古墳史跡指定地地区	樹林地となっている。墳頂と墳裾の比高差は約19m。概ね遺構は解明されている。墳頂部の形象埴輪と竪穴式石室の長持形石棺は中期古墳の基準資料となっている。一部公有地であるが、大半は民有地である。
	宮山古墳史跡指定地隣接地区	地形は概ね平坦で宅地や農用地として利用されている。宮山古墳の周濠や周堤帯の遺構のほか、ネコ塚古墳が分布する。南側は桜田池公園がある。大半が民有地である。
	宮山古墳西側周辺地区	計画地への北西方向からの入口にあたる。地形は概ね平坦で、大半が宅地として利用されている。いくつかの古墳の分布が確認されている。御所市文化財事務所がある。
	宮山古墳東側周辺地区	御所南ICを含み、計画地への北東方向からの入口にあたる。地形は概ね平坦で、大半が農用地である。農業振興地域および宅地造成工事規制区域となっている。地区東側は京奈和自動車道(建設中)が南北に走り、開通後は交通拠点となる。
巨勢山古墳群地区	巨勢山古墳群史跡指定地 A 地区	概ね丘陵の斜面地である。尾根部を中心に総数約300基を数える墳丘が分布する。雑木林となっている。一部発掘調査は実施されているが、未調査の古墳も多い。用地は半分程度公有化されている。
	巨勢山古墳群史跡指定地 B 地区	孤立丘の飛び地となった史跡指定地。14基の古墳が確認されている。一部の裾部を除いて雑木林に覆われている。用地は大半が公有地化している。
	巨勢山古墳群北側麓地区	史跡巨勢山古墳群の北側の平坦地で概ね農地として利用されている。所々に古墳が分布する。自然環境保全法の国見山景観保全地区と一部は農振法の農用地区域に指定されている。

巨勢山古墳群北東側地区	史跡巨勢山古墳群の北東側の丘陵部で樹林地となっている。自然環境保全法の国見山景観保全地区となっている。	
巨勢山古墳群南西側地区	都市計画法上工業専用地域もしくは準工業地域で、御所工業団地、御所市クリーンセンター、採土・採石場が分布する。また都市計画公園である御所市総合運動公園が立地する。	
巨勢山古墳群南東側地区	ゴルフ場として利用されている。	
條ウル神古墳地区	條ウル神古墳史跡指定予定地区	巨大な石室と石棺の存在が確認されている。墳丘や石室の詳細な調査は未だなされていない。墳丘や周辺部は著しく改変されている。国の史跡指定を検討中である。
條ウル神古墳周辺地区	地形は概ね平坦で、大半が農地である。地区西側は京奈和自動車道(建設中)の高架によって視覚的には西方への見通しが分断される。自然環境保全法の国見山景観保全地区および農業振興地域、宅地造成工事規制区域となっている。いくつかの古墳の分布が確認されている。	

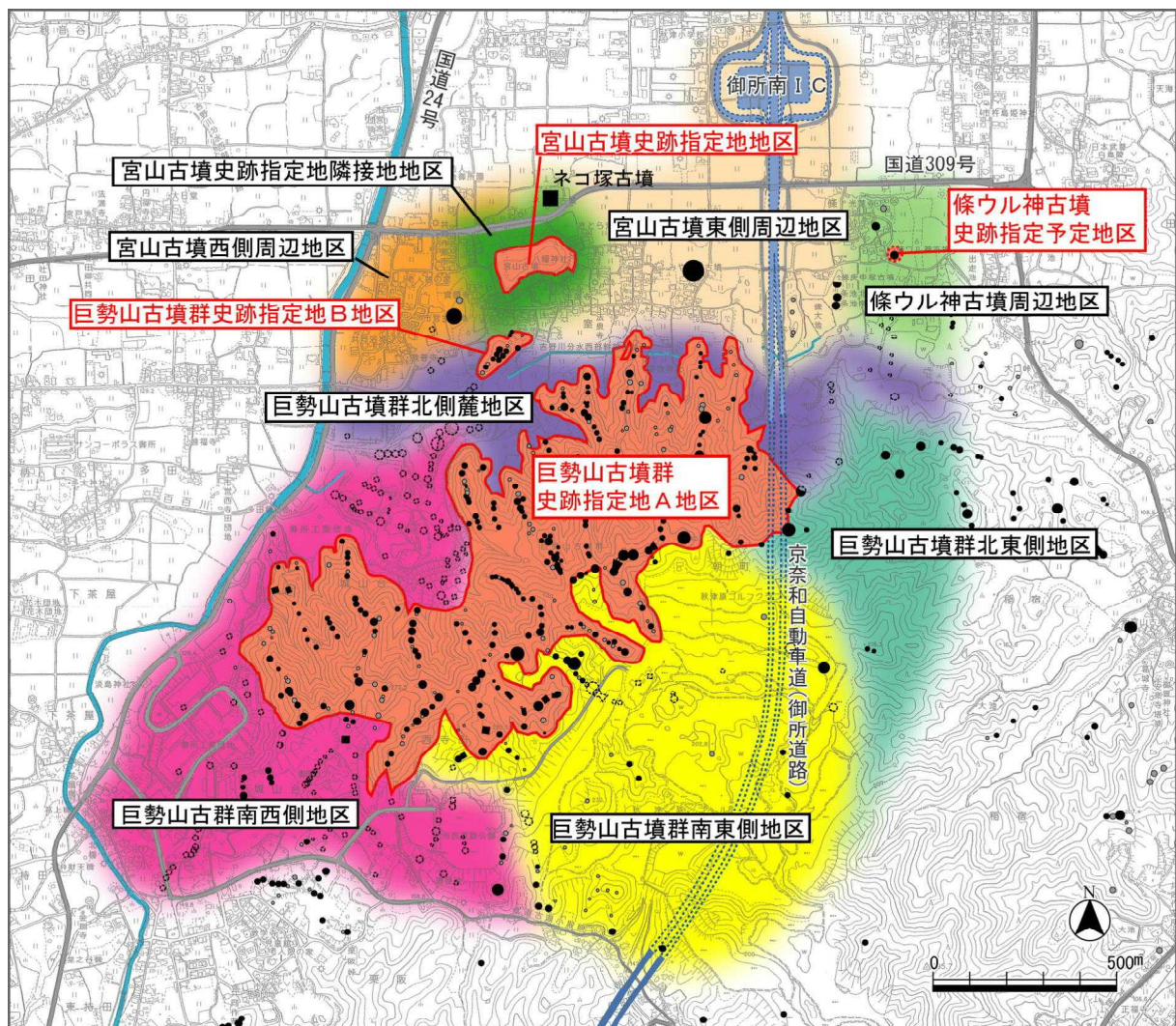


図110 地区区分図

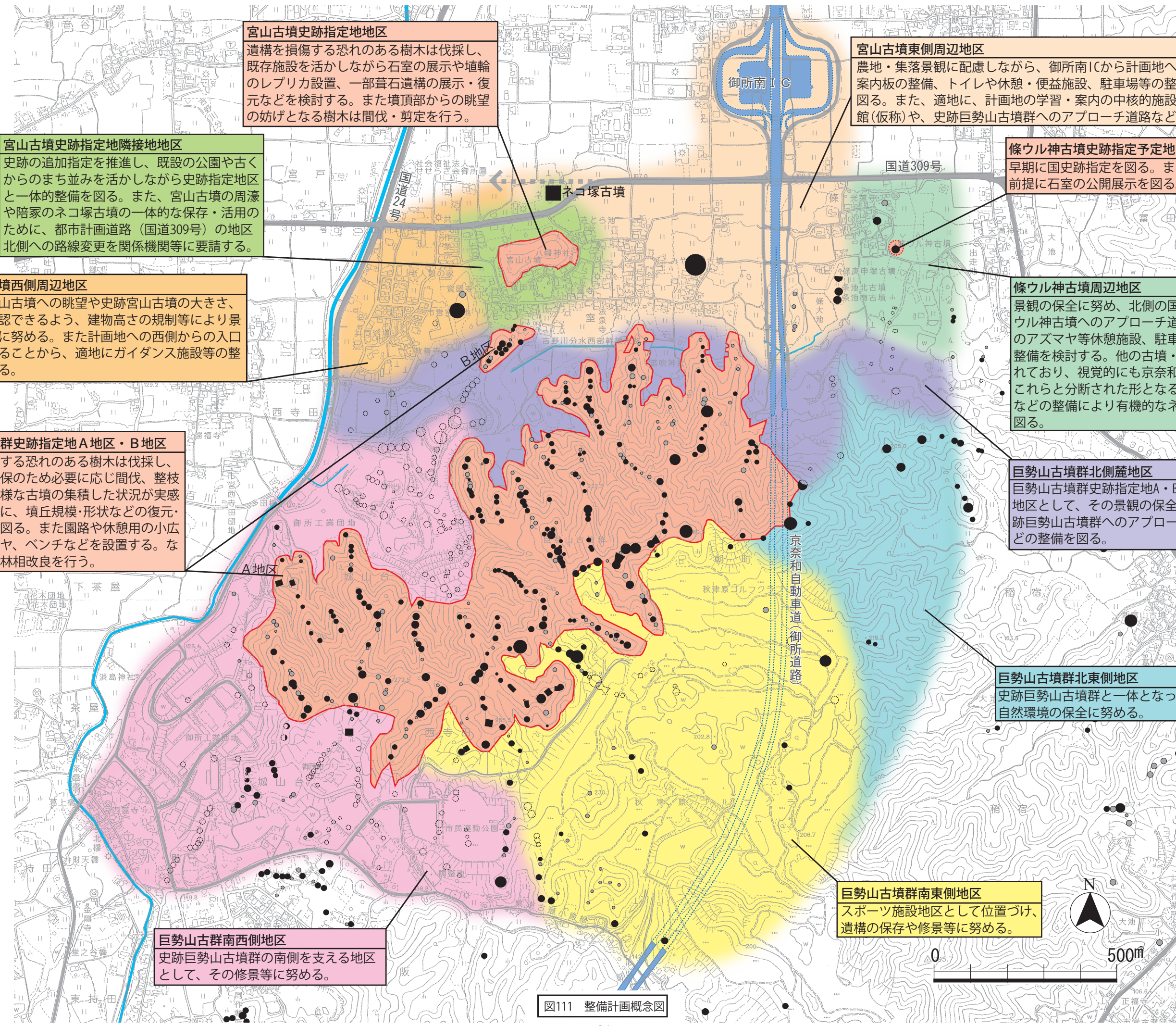
4-2-2 地区別整備計画

各地区の特性等を踏まえ、各地区の整備計画を表9に、整備の概念図を図111に示す。

表9 地区別整備計画

区 分	細 分	整 備 計 画
宮山古墳地区	宮山古墳史跡指定地地区	遺構の保存を前提に、遺構を損傷する恐れのある樹木は伐採し、条件が整えば整備された既存施設を活かしながら石室の展示や埴輪のレプリカ設置、一部葺石遺構の展示もしくは復元などを検討する。また墳頂部からの眺望の妨げとなる樹木は間伐・剪定を行う。
	宮山古墳史跡指定地隣接地区	史跡の追加指定を推進し、既設の公園や古くからのまち並みを活かしながら史跡指定地地区と一体的整備を図る。また、宮山古墳の周濠や陪冢のネコ塚古墳の一体的な保存・活用のために、都市計画道路（国道309号）の地区北側への路線変更を関係機関等に要請する。
	宮山古墳西側周辺地区	史跡宮山古墳への眺望や史跡宮山古墳の大きさ、形が視認できるように、地権者等関係者の理解と協力を得て、建物高さの規制等により景観保全に努める。また計画地への西側からの入口にあたることから、適地にガイダンス施設等の整備を図る。
	宮山古墳東側周辺地区	農地・集落景観の保全に配慮しながら、御所南ICから計画地へ誘導する道路や案内板の整備、トイレや休憩・便益施設、駐車場等の整備（道の駅）を図る。御所南ICには京奈和自動車道整備に伴い検出された重要遺跡の紹介等により、当該地一帯の歴史的背景のガイダンスならびに計画地への誘導を行う。計画地の学習・案内の中核的施設となる歴史博物館（仮称）の整備を図る。また史跡巨勢山古墳群へのアプローチ道路などの整備を図る。
巨勢山古墳群地区	巨勢山古墳群史跡指定地A地区	既存樹木のうち遺構を損傷する恐れのある樹木は伐採し、眺望確保のため必要に応じ間伐、整枝を行う。多様な古墳が集積した状況が実感できるように、規模、形状などの復元・表示整備を図る。さらにこれら整備された遺構が見学できるよう園路や休憩用の小広場、アズマヤ、ベンチなどを設置する。また全般的に林相改良を行う。
	巨勢山古墳群史跡指定地B地区	
	巨勢山古墳群北側麓地区	国見山景観保全地区や農用地地区であることから土地利用や景観上の大幅な改変は少ないと予測されるが、史跡巨勢山古墳群地区の足下を支える地区として地権者等関係者の同意と協力を得て、その景観の保全に努める。また史跡巨勢山古墳群へのアプローチ道路、駐車場などの整備を図る。

	巨勢山古墳群北東側地区	国見山景観保全地区となっているため、景観上の大幅な改変はないと思われるが、史跡巨勢山古墳群と一体となった地形として自然環境の保全に努める。
	巨勢山古墳群南西側地区	史跡巨勢山古墳群の南側を支える地区として関係者等の理解と協力を得て、その修景等に努める。
	巨勢山古墳群南東側地区	スポーツ施設地区として位置づけ、今後とも関係者等の理解と協力を得て、遺構の保存や修景等に努める。
條ウル神古墳地区	條ウル神古墳史跡指定予定地区	残存する遺構の保存をより確固なものとするため、発掘調査等各種調査を早急に行い、国史跡への指定を図る。また遺構の保護を前提に、石室の公開展示を図る。
	條ウル神古墳周辺地区	国見山景観保全地区であり、また農業振興地域、宅地造成工事規制区域となっているため、土地利用や景観の大幅な改変はないものと思われる。そのため、地権者等関係者の同意と協力を得て、その景観の保全に努める。また、北側の国道309号からの條ウル神古墳へのアプローチ道路や来訪者のためのアズマヤ等休憩施設、駐車場など便益施設の整備を検討する。他の古墳・古墳群からやや離れており、視覚的にも京奈和自動車道の高架でこれらと分断された形となるため、動線や道標などの整備により有機的なネットワーク強化を図る。



宮山古墳史跡指定地地区
 遺構を損傷する恐れのある樹木は伐採し、既存施設を活かしながら石室の展示や埴輪のレプリカ設置、一部葺石遺構の展示・復元などを検討する。また墳頂部からの眺望の妨げとなる樹木は間伐・剪定を行う。

宮山古墳史跡指定地隣接地地区
 史跡の追加指定を推進し、既設の公園や古くからのまち並みを活かしながら史跡指定地区と一体的整備を図る。また、宮山古墳の周濠や陪冢のネコ塚古墳の一体的な保存・活用のために、都市計画道路（国道309号）の地区北側への路線変更を関係機関等に要請する。

宮山古墳西側周辺地区
 史跡宮山古墳への眺望や史跡宮山古墳の大きさ、形が視認できるよう、建物高さの規制等により景観保全に努める。また計画地への西側からの入口にあたることから、適地にガイダンス施設等の整備を図る。

巨勢山古墳群史跡指定地A地区・B地区
 遺構を損傷する恐れのある樹木は伐採し、また眺望確保のため必要に応じ間伐、整枝を行う。多様な古墳の集積した状況が実感できるように、墳丘規模・形状などの復元・表示整備を図る。また園路や休憩用の小広場、アズマヤ、ベンチなどを設置する。なお全般的に林相改良を行う。

巨勢山古群南西側地区
 史跡巨勢山古墳群の南側を支える地区として、その修景等に努める。

宮山古墳東側周辺地区
 農地・集落景観に配慮しながら、御所南ICから計画地へ誘導する道路や案内板の整備、トイレや休憩・便益施設、駐車場等の整備（道の駅）を図る。また、適地に、計画地の学習・案内の中核的施設となる歴史博物館（仮称）や、史跡巨勢山古墳群へのアプローチ道路などの整備を図る。

條ウル神古墳史跡指定予定地区
 早期に国史跡指定を図る。また遺構の保護を前提に石室の公開展示を図る。

條ウル神古墳周辺地区
 景観の保全に努め、北側の国道309号からの條ウル神古墳へのアプローチ道路や来訪者のためのアズマヤ等休憩施設、駐車場など便益施設の整備を検討する。他の古墳・古墳群からやや離れており、視覚的にも京奈和自動車道の高架でこれらと分断された形となるため、動線や道標などの整備により有機的なネットワーク強化を図る。

巨勢山古墳群北側麓地区
 巨勢山古墳群史跡指定地A・B地区の足下を支える地区として、その景観の保全に努める。また史跡巨勢山古墳群へのアプローチ道路、駐車場などの整備を図る。

巨勢山古墳群北東側地区
 史跡巨勢山古墳群と一体となった地形として自然環境の保全に努める。

巨勢山古墳群南東側地区
 スポーツ施設地区として位置づけ、遺構の保存や修景等に努める。

図111 整備計画概念図

4-3 計画実現へ向けて

計画の実現に向けては、今後各種のより詳細な検討等作業を経ていく必要があるが、その他にもいくつかの克服すべき課題等がある。ここではこれらを列記しておく。

◎ 組織体制づくり

○調査研究体制づくり

計画地には数多くの古墳が分布しているが、これらの多くは、発掘調査等による遺跡の解明がまだ十分な状態には達していない。

同様に地域の歴史や変遷についても、継続的な調査、研究が求められており、今後史資料等文献調査も必要である。

こうしたことから、今後これらの調査、研究を計画的・体系的に実施する必要があり、例えばガイダンス施設等の建設などと合わせ、調査研究組織体制づくりを行う必要がある。

○開発整備に対する協議のための体制づくり

計画地においては、都市計画上、産業振興上など市民生活の環境を向上するための開発整備が進められてきたが、今後も開発整備は進むことが考えられる。計画では地区区分により、各々の地区の整備の方向性を明らかにしたが、これらの方向性に合致するよう、開発整備を誘導していく必要がある。また、公共事業だけでなく、民間の開発整備についても、同様にその誘導を図る必要がある。このため関連計画や主要な開発整備に対して、総合的な協議、調整ができるよう体制づくりを行う必要がある。

◎ 市民の理解・協力を得る

計画地は、市民の生活や生産の場であり、また多くの観光客が訪れる観光地ともなる。市民をはじめとする多くの人々の文化財に対する意識の高揚が保存・活用整備には必要である。特に地権者等住民の保存・活用整備に果たすべき役割は大きいものがあり、貴重な価値を持つ文化財が本来あるべき姿で保存・活用整備されていくよう、市民の理解と協力が得られるようにコンセンサスづくりを進める必要がある。

◎ 関連機関との連携

計画地の保存・活用整備を具体化していく上では、関連計画等との調整等、御所市の関係部局の協力・連携を図ることはもとより、国、県の指導、助言ならびに各種研究機関等の協力が必要であり、今後、これら関係機関との連携・調整に努める必要がある。特に、京奈和自動車道御所南ICの開通に合わせて開発部局との調整はもとより、「史跡公園整備」と「観光の玄関口としての機能の強化」を共通の目的として、「道の駅」の誘致等も含めて土地利用のあり方を関係機関と協力して検討していく必要がある。

また、史跡宮山古墳、史跡巨勢山古墳群、條ウル神古墳および周辺域という広域にわたる保存整備計画であるため、多大な費用を要することが想定され、また奈良県を代表する遺跡の集積地であることなどから、奈良県はもとより、文化庁、国土交通省、農林水産省などの各種補助事業も念頭に置いて、関係機関との協議を進めるものとする。

◎ 段階計画の策定とその具体化

本計画が示す成果に基づき、計画を具現化するため、今後、実施計画等段階計画を策定し、その事業の実施に努める。

大規模古墳公園整備事例

- 1 馬見丘陵公園・巢山古墳(奈良) ————— 資料-1
- 2 国営飛鳥歴史公園 (奈良) ————— 資料-4
- 3 近つ飛鳥風土記の丘 (大阪) ————— 資料-8
- 4 今城塚古墳公園・史跡新池ハニワ工場(こうば)公園・昼神車塚古墳 (大阪) 資料-11
- 5 紀伊風土記の丘 (和歌山) ————— 資料-15
- 6 与謝野町立古墳公園 (京都) ————— 資料-18
- 7 大岩山古墳群・史跡公園 (滋賀) ————— 資料-22
- 8 史跡・雨の宮古墳公園 (石川) ————— 資料-24
- 9 肥後古代の森 (熊本) ————— 資料-26
- 10 西都原風土記の丘 (宮崎) ————— 資料-32
- 11 生目古墳群史跡公園 (宮崎) ————— 資料-36
- 12 さきたま古墳公園 (埼玉) ————— 資料-39
- 13 上毛野はにわの里公園 (群馬) ————— 資料-42

注：整備事例の中で使用した写真や図は各自治体・博物館等公共機関の整備報告書・パンフレット・HPから転載したものを含む。

公園の概要	種別：都市公園〔県営公園、広域公園〕 規模：計画65.3ha、供用47.1ha
整備事業・管理運営主体	整備事業主体－奈良県 管理運営主体－奈良県（馬見丘陵公園館） 隣接する特別史跡巣山古墳については、 整備事業主体－広陵町（整備中）
整備について	歴史と文化の遺産や素晴らしい自然環境を、県民の憩いの空間として広く活用することを目的に整備した奈良県下最大級の都市公園。緑の心地よさを楽しむだけでなく、見て・楽しんで・学ぶという、多目的な空間にふさわしい環境を整え、新しい都市公園のかたちをめざしている。
ガイダンス施設等	公園館（ナガレ山古墳の立体模型など、馬見丘陵に散在する古墳群の歴史と文化を展示）
その他施設	園路、睡蓮の池、菖蒲園、梅林、大型遊具、駐車場など
公園及びガイダンス施設等の利用状況	馬見丘陵公園館 開館9:00～17:00、入館無料、月曜休館、無料駐車場は年中無休で8:00開場、閉場時間は季節により異なる(17:00～19:00) 公園館利用者数約6.3万人（平成23年度）。
公園及びガイダンス施設等の活用について	年1回の歴史講座 植物講座 市町村対抗子供駅伝大会



ナガレ山古墳航空写真



ナガレ山古墳



南エリアと中央エリアにまたがる道路によって分断されているのが狐塚古墳。
奥の周濠を持つ前方後円墳が巢山古墳(公園外)



乙女山古墳航空写真



現在の乙女山古墳



奈良県馬見丘陵公園館

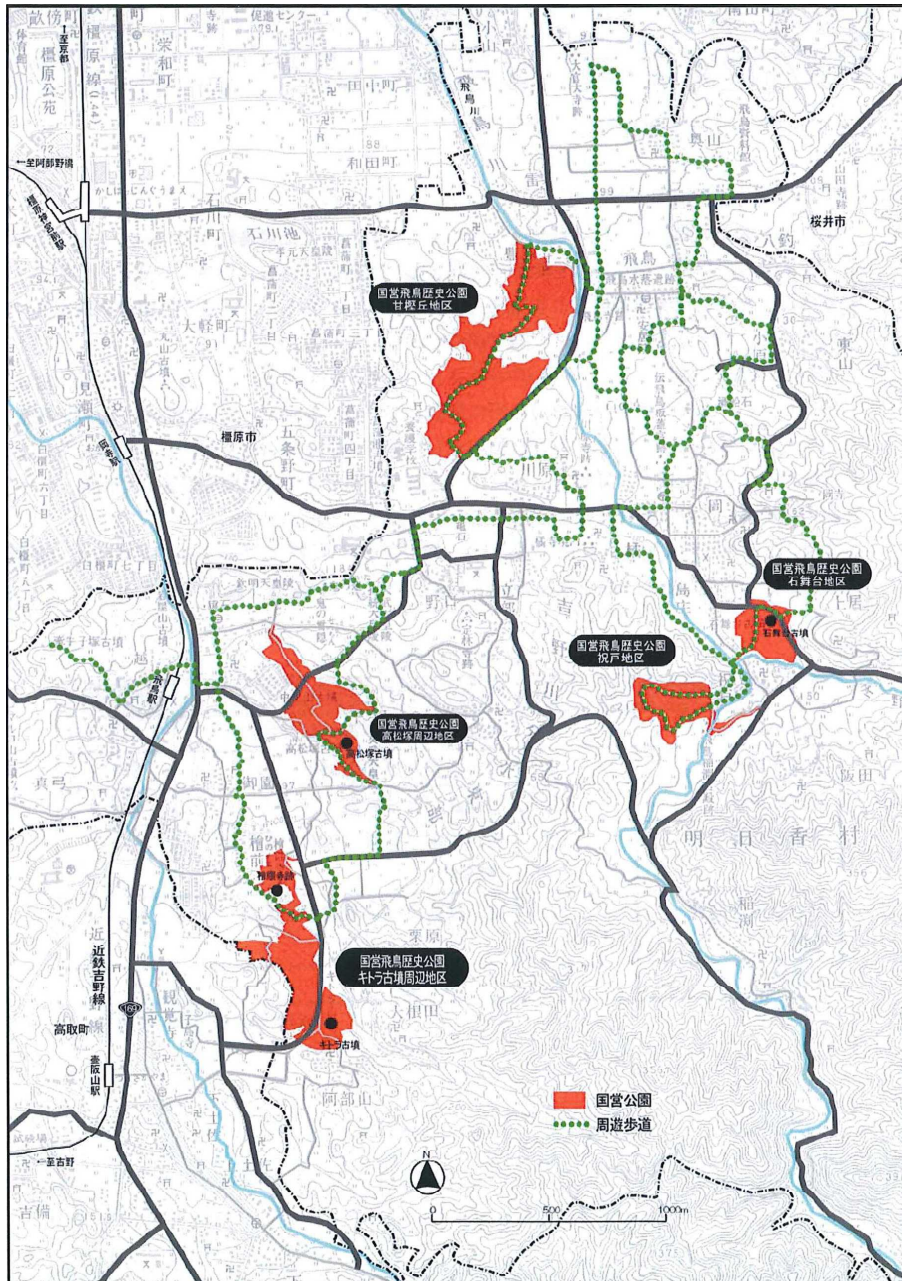


園内の桜並木

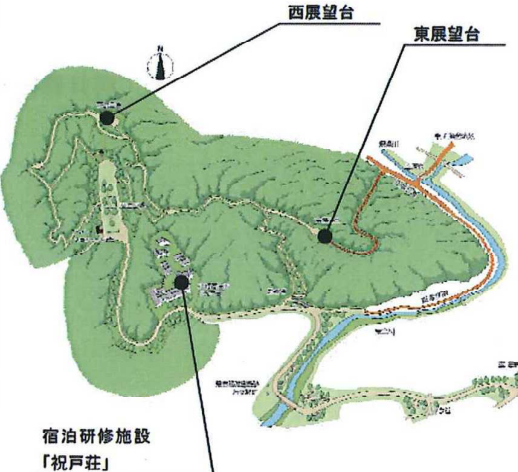

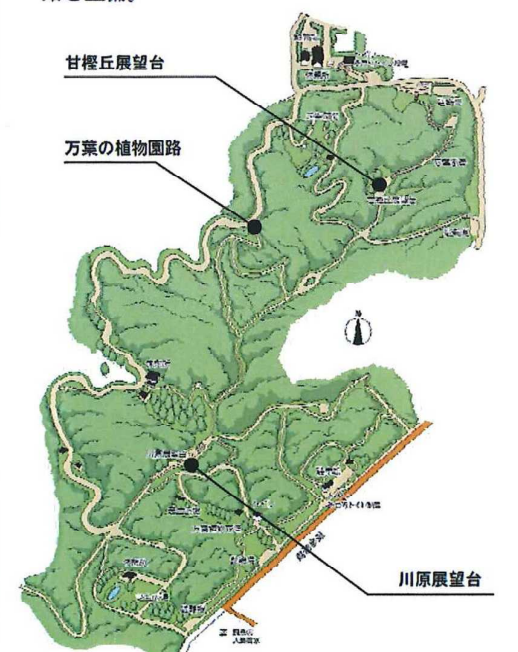

2 国営飛鳥歴史公園

所在地：奈良県明日香村

公園内の古墳	古墳の概要：推古天皇の即位(592)から持統天皇が藤原宮へ遷都する(694)までの約100年間、各天皇の宮殿が飛鳥盆地に置かれた。この飛鳥京の周辺部に石舞台古墳、高松塚古墳、キトラ古墳、中尾山古墳、吉備姫王墓、文武天皇陵、欽明天皇陵、天武・持統天皇陵、鬼の雪隠（もとは古墳石室の一部であったと言われている）、鬼の俎（古墳の床石と考えられている）といった著名な古墳が点在している。
国指定史跡	史跡指定年
特別史跡石舞台古墳(11,680.32㎡)	昭和10年(1935)・昭和27年(1952)特史
特別史跡高松塚古墳(907㎡)	昭和47年(1972)・昭和48年(1973)特史
特別史跡キトラ古墳(4,301㎡)	平成12年(2000)・同年 特史
他	



公園の概要	種別：都市公園〔国営公園：国営飛鳥・平城宮跡歴史公園〕
	規模：総面積59.7ha（祝戸地区7.4ha、石舞台地区4.5ha、甘樫丘地区25.1ha、高松塚周辺地区9.1ha、キトラ古墳周辺地区13.6ha）※キトラ古墳周辺地区は未供用

祝戸地区		石舞台地区	
面積 7.4ha	事業承認 S46.12.23	面積 4.5ha	事業承認 S46.12.23
都市計画決定 S46.7.30	供用開始 S49.7.22 (告示は S51.8.30)	都市計画決定 S46.7.30	供用開始 S51.8.30
<p>飛鳥古京や柵田を一望できる展望台のほか宿泊研修施設を設置。</p> 		<p>蘇我馬子の墓と伝えられる石舞台古墳を中心に、周囲の柵田地形を活かした芝生広場などを整備。</p> 	
甘樫丘地区		高松塚周辺地区	
面積 25.1ha	事業承認 S49.3.28	面積 9.1ha	事業承認 S52.3.28
都市計画決定 S49.1.18	供用開始 S55.4.1	都市計画決定 S51.10.22	供用開始 S60.10.23
<p>蘇我蝦夷・入鹿の邸宅があったとされる甘樫丘に飛鳥古京・大和三山が望める展望広場や散策路を整備。</p> 		<p>高松塚古墳の周辺を整備。インフォメーションセンターである公園館を設置。</p> 	

整備事業・管理運営主体	整備事業主体－国土交通省近畿地方整備局、文化庁(古墳部分等) 管理運営主体－国営飛鳥歴史公園事務所
整備について	「日本人の心のふるさと」を基本テーマとし、飛鳥の歴史的風土を保存し活用していく上で必要な地域を拠点的に整備。祝戸・石舞台・甘檜丘・高松塚周辺・キトラ古墳周辺の5つの地区からなる。 各地区は、祝戸－展望・散策及び宿泊研修、石舞台－史跡観賞及び休養、甘檜丘－展望及び散策、高松塚周辺－史跡や模写壁画の鑑賞と利便と管理機能、キトラ古墳周辺(整備中)－史跡観賞及び体験的学といった機能に重点を置いて整備されている。
ガイダンス施設等	国営飛鳥歴史公園館(国営飛鳥歴史公園4地区の施設や催し物の案内をはじめ、飛鳥地方の史跡や歴史を立体模型や映像を用いて紹介。「飛鳥歴史アニメ」、タッチパネルコンピュータで見る「飛鳥百景」など。飛鳥探訪の出発点となる施設。)、高松塚壁画館((財)古都飛鳥保存財団)、奈良文化財研究所飛鳥資料館、明日香村埋蔵文化財展示室
その他施設	○展望台、宿泊研修施設、多目的休憩所、芝生広場、万葉の植物園路など。高松塚周辺地区、甘檜丘地区、石舞台地区に無料駐車場がある。 ○明日香村内に整備された総延長18kmの周遊歩道は村内の史跡を結ぶと同時に、国営明日香歴史公園の各地区とも一体となった利用が図られるように配慮されている。 ○奈良県立万葉文化館、犬養万葉記念館、明日香民俗資料館・眞神荘((財)明日香村観光開発公社)
公園及びガイダンス施設等の利用状況	年間100万人以上が国営飛鳥歴史公園を利用する(平成21年度は118万人)。 ----- 国営飛鳥歴史公園館 開館9:30～17:00※12月～2月は16:30閉館、入館無料、12月29日～1月3日休館 高松塚壁画館 開館9:00～17:00(入館は16:30まで)、観覧料大人250円学生130円小人70円、12月29日～翌年1月3日休館
公園及びガイダンス施設等の活用について	○国営飛鳥歴史公園飛鳥管理センターでは、団体向けに歴史・クラフト・環境教育といった体験プログラムを実施している。ガイドなどはボランティア「飛鳥里山クラブ」が努める。 ○「飛鳥里山クラブ」は、飛鳥に育まれた里山の自然・歴史的風土について学び、里山を美しく保つ活動などを行う。一年間の講座修了後は、飛鳥歴史公園のイベントなどで、より多くの人々にその魅力を伝える活動を行う。



高松塚古墳



高松塚古墳壁画館—高松塚古墳より発見された石槨内部の模型と、永久保存が図られている高松塚古墳の出土品（レプリカ）や壁画の模写を展示。古墳西隣に建つ。



キトラ古墳—現在保存修理中のため内部見学は出来ない。石室内内容様子は飛鳥資料館、明日香村埋蔵文化財展示室において復元模型や写真パネルで見ることが出来る。



中尾山古墳—高松塚古墳のすぐ北にある三段築成の8角形墳。



西展望台—視界の広がりに合わせて扇形のデザインのサインを採用し、近景・遠景を表示している。

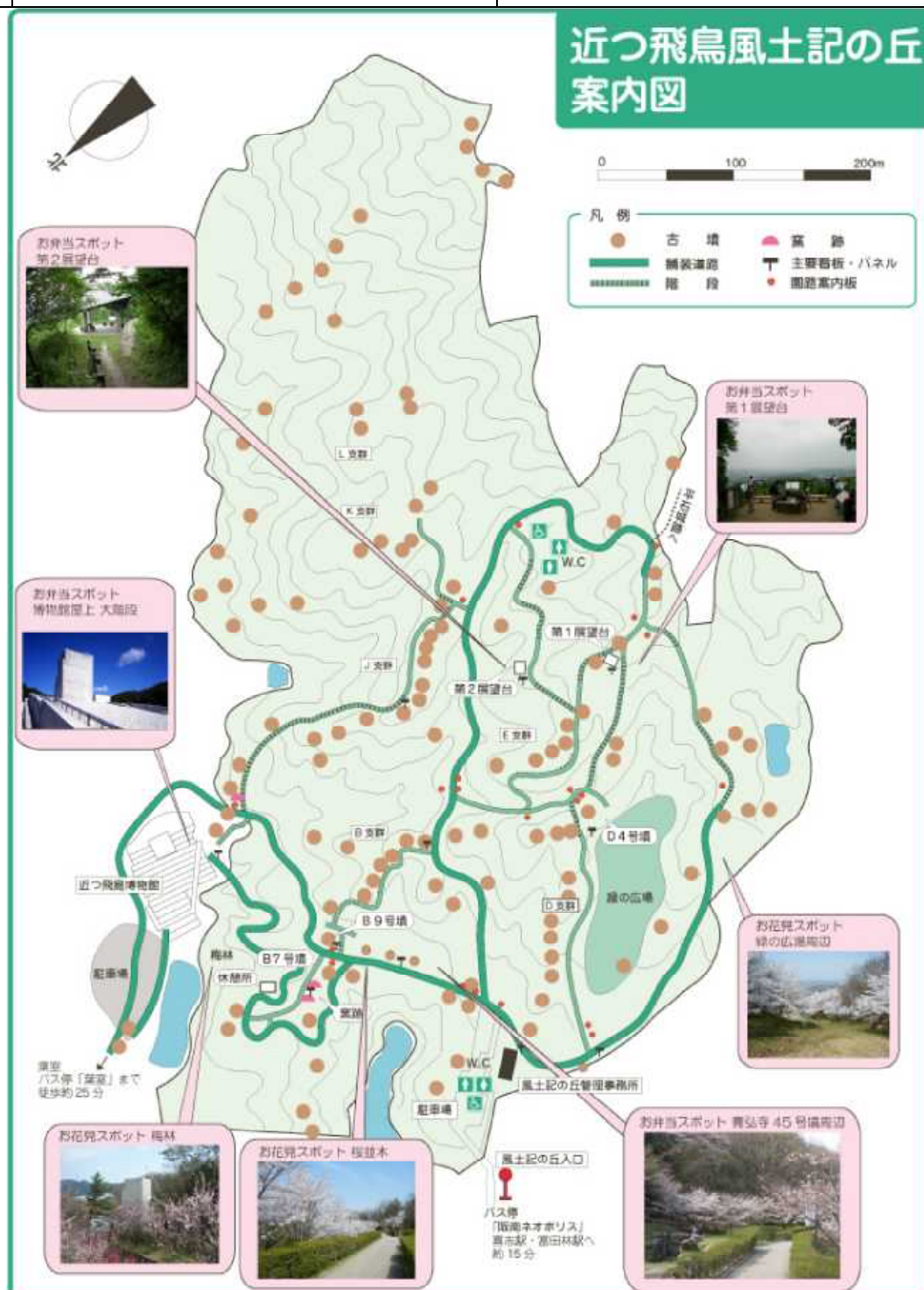


明日香村埋蔵文化財展示室—おもな展示物は明日香村内出土遺物、キトラ古墳石室模型など。旧飛鳥小学校の建物を利用。

3 近つ飛鳥風土記の丘

所在地：大阪府南河内郡太子町・河南町

公園内の古墳	古墳の概要：一須賀古墳群は約270基からなる古墳群で、そのほとんどが10mから20mの円墳である。園内には102基の古墳があり、うち40基が整備公開されている。	
	国指定史跡	史跡指定年
	史跡一須賀古墳群(487,477㎡)	平成6年(1994)



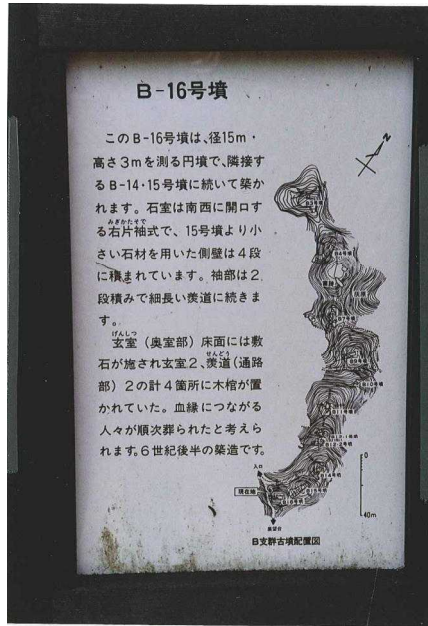
公園の概要	種別：史跡公園 規模：29ha 供用開始：昭和61年(1986)
整備事業・管理運営主体	整備事業主体—大阪府 管理運営主体—大阪府（(財)大阪府文化財センター）
整備について	極力自然を残すため特別な復元整備は行っていない。そのため四季が豊かで、野鳥などの動物も多数生息している。
ガイダンス施設等	大阪府立近つ飛鳥博物館（平成6年(1994)開館。延床面積約5,925㎡、(財)大阪府文化財センター管理（指定管理者））
その他施設	展望台、緑の広場、桜並木、梅林、駐車場など
公園及びガイダンス施設等の利用状況	風土記の丘入場者数約8.3万人。校外学習や遠足で毎年100校あまりの学校が風土記の丘とともに博物館を利用する。 ----- 近つ飛鳥博物館 開館10:00～17:00、常設展は大人300円、高校生・大学生・65歳以上の方200円、月曜休館 博物館年間入館者数約10万人（平成20年度）。
公園及びガイダンス施設等の活用について	○博物館では年1～2回の特別展・企画展を開催し、特別展期間中に歴史セミナーやワークショップなども開催している。また教育・普及事業としてアウトリーチ・プログラム（館員による学校、公民館などでのレクチャー、ワークショップ）、一須賀古墳群講座、カルチャーofアスカディア（歴史遺産現地見学会、レクチャー、ワークショップ）、古墳の森コンサート（室内、屋上）、こどもプログラムなどをおこなう。 ○上記のうち公園での活動は、一須賀古墳群講座（古墳群ツアー・古墳教室）、こどもプログラム（古墳なぜなに教室、こども古墳群探検ツアー）など。毎年恒例の風土記の丘古墳時代祭り(H24年度は5/3(木))では園内の古墳を巡るウォークラリーや園内の木々を利用したものづくりなどが催される。



第1展望台



第2展望台



D-4号墳 一須賀古墳群最大の石室をもつ



J支群園路 柵の左は古墳石室露出展示

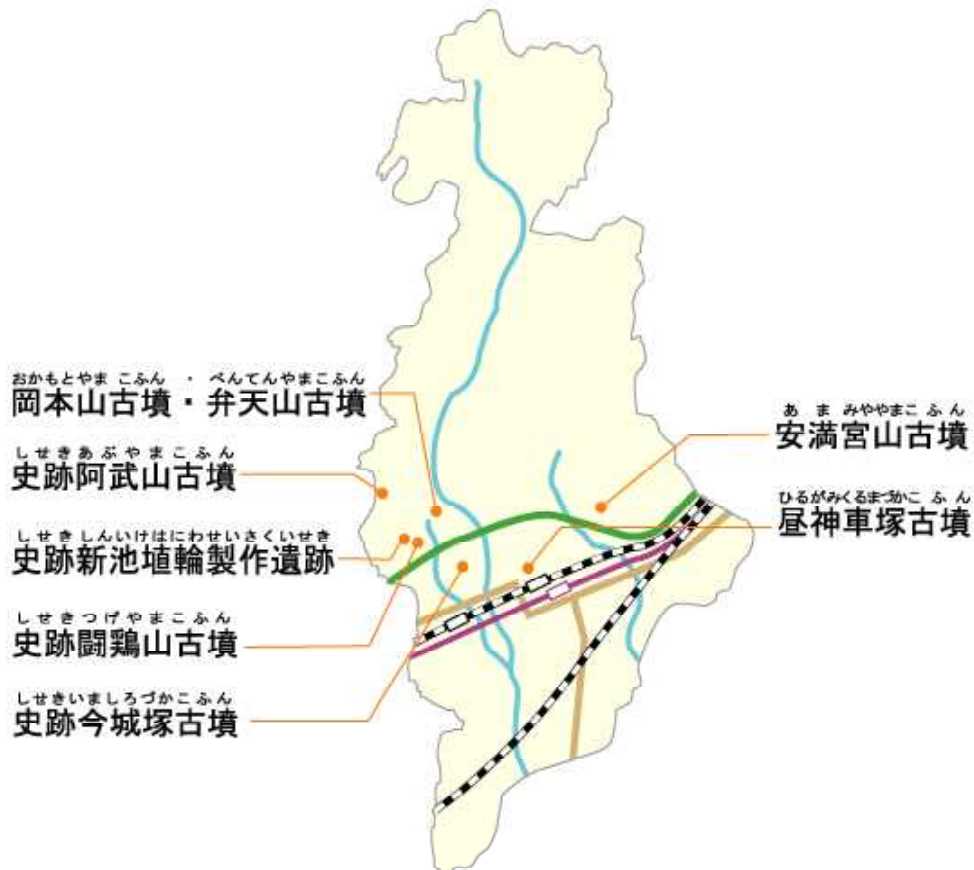


風土記の丘に移設された寛弘寺45号墳(右奥)、石室周囲をめぐる排水溝も復元されている

4 今城塚古墳公園・史跡新池ハニワ工場(こうば)公園・昼神車塚古墳

所在地：大阪府高槻市

公園内の概要	古墳	今城塚古墳は真の継体陵とされ、墳長190mと後期古墳としては破格の規模を誇る。二重濠を有し、内堤には東西65m×南北10mの埴輪祭祀場がある。祭祀場のは柵形埴輪列によって東西4つに仕切られ、「招魂」「鎮魂」などの祭祀が整然と執行される葬送儀礼を再現した貴重な事例として注目される。
	古墳	新池埴輪製作遺跡では、約2km離れた今城塚古墳などの埴輪を製作していた。昼神車塚古墳は全長約60mの前方後円墳。今城塚古墳と同窯で製作された埴輪が出土。上宮天満宮境内地。東・西・南側は民家と接しており全体像は見えない。
国指定史跡		史跡指定年
史跡今城塚古墳 附 新池埴輪製作遺跡 (90,242.68㎡)		昭和33年(1958)・平成3年(1991)追加 ・平成18年(2006)追加

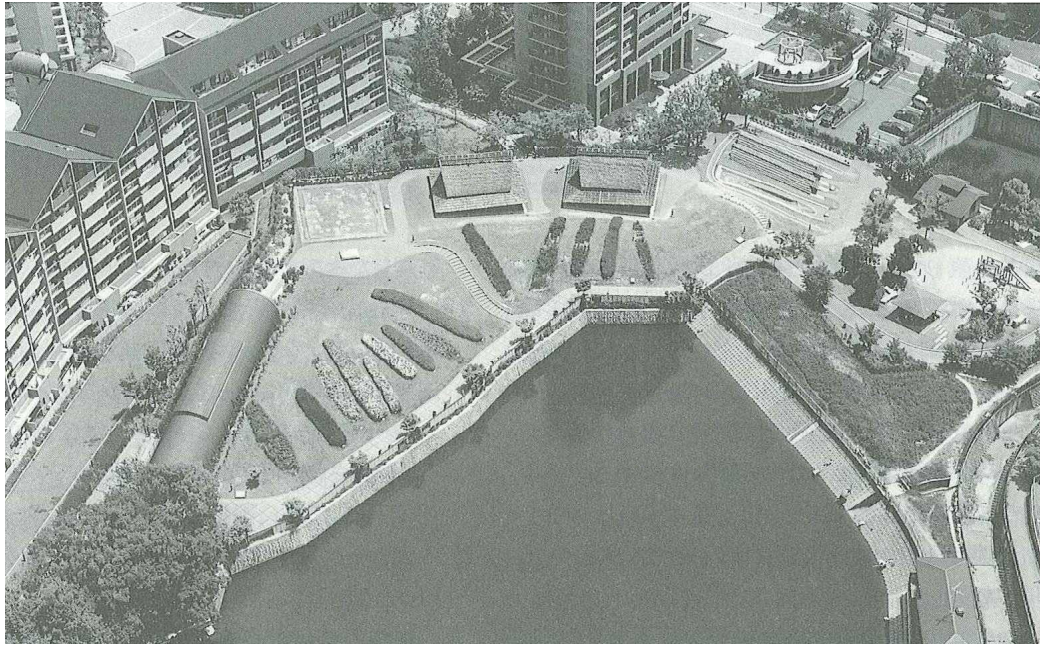


今城塚古墳



昼神車塚古墳

公園の概要	<p>種別：史跡公園</p> <p>規模：史跡新池ハニワ工場公園は4.163㎡</p> <p>供用開始：今城塚古墳公園－平成23年(2011)、史跡ハニワ工場公園－平成7年(1995)</p>
整備事業・管理運営主体	<p>整備事業主体－高槻市</p> <p>管理運営主体－高槻市</p> <p>(史跡新池ハニワ工場公園についてはシルバー人材センターを委託先として史跡公園を一括管理。今城塚古墳公園、昼神車塚古墳についても同様かは不明)</p>
整備について	<p>今城塚古墳公園</p> <p>高槻市は、史跡今城塚古墳を市の歴史遺産のネットワークの中核として整備した。調査成果にもとづき大形前方後円墳の二重の濠や、この古墳最大の特徴である埴輪祭祀場を復元して史跡公園として公開している。埴輪祭祀場には、家、人物、動物など200本以上の形象埴輪が整然と並んでいる。</p> <p>史跡新池ハニワ工場(こうば)公園</p> <p>18基の窯の存在した場所は全て明らかになっており、このうち2基が復元されている。それ以外は窯のあった場所を示すツツジの植え込みによって表示されている。3棟あった作業場(工房)は2棟が復元、1棟が平面表示されている。</p> <p>昼神車塚古墳</p> <p>府道建設のため前方部を切り取る予定であったが住民の強い要望により古墳下をトンネルとした。テラスには埴輪の複製品が配列されている。</p>
ガイドンス施設等	<p>今城塚古代歴史館(平成23年(2011)4月開館、鉄骨2階建、延べ床面積約4千㎡)</p>
その他施設	<p>今城塚古墳公園</p> <p>園路、芝生広場、トイレ、駐車場など</p> <p>史跡新池ハニワ工場公園</p> <p>復元施設、開設パネル、遊具など</p>
公園及びガイドンス施設等の利用状況	<p>今城塚古代歴史館</p> <p>開館10:00～17:00(入館は16:30まで)、入館無料、月曜休館</p> <p>年間入館者数約8.2万人、H17.09.25歴史シンポジウム「継体大王とその時代」参加者約1000人</p> <p>ハニワ工場館</p> <p>開館10:00～17:00(公園内は終日可)、入館無料、管理人常駐</p> <p>昼神車塚古墳</p> <p>北側の柵外からの見学となる。</p>



史跡新池ハニワ工場公園上空写真



ハニワ工場館内 出土遺構



史跡新池ハニワ工場公園 復元竈

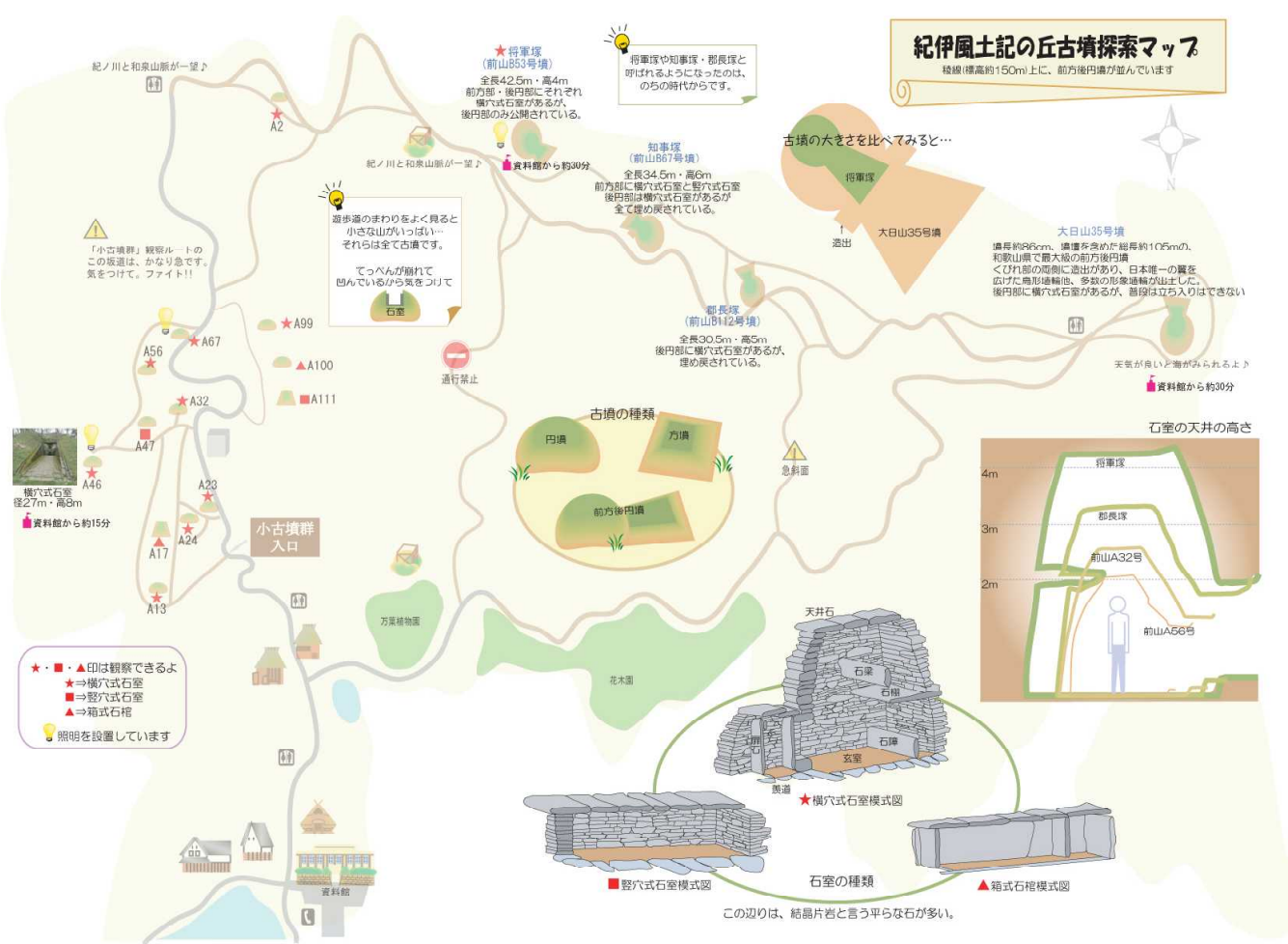


ハニワづくりとスケッチ・ぬりえ大会

5 紀伊風土記の丘

所在地：和歌山県和歌山市

公園内の古墳	<p>古墳の概要：岩橋千塚古墳群は東西3.5km南北2.5kmの丘陵地帯に約700基の古墳が分布する。大部分は円墳からなり、前方後円墳が20基、方墳が4基ある。風土記の丘区域内の古墳は約380基である。</p> <p>古墳群の特徴としては、石室が結晶片岩の板石で築かれていること、横穴式石室が岩橋型と呼ばれる独特の形態で、石柵・石梁を備えたものが数多く見られることなどが挙げられる。</p>
国指定史跡	史跡指定年
特別史跡岩橋千塚古墳群(608,801㎡)	昭和6年(1931)・昭和27年(1952)特史 ・平成12年(2000)追加



公園の概要	種別：史跡公園 規模：約65ha 供用開始：昭和46年(1971)
整備事業・ 管理運営主 体	整備事業主体－和歌山県 管理運営主体－和歌山県（和歌山県立紀伊風土記の丘） ----- 「和歌山県立紀伊風土記の丘設置および管理条例」昭和46年3月6日 「和歌山県立紀伊風土記の丘管理規則」昭和46年7月29日
整備につい て	園内の12基の古墳で石室を公開しており、箱式石棺・横穴式石室・竪穴式石室などを見学できる。 3基の前方後円墳と、修復して芝を張った4基の円墳の墳丘を見学できる。大日山35号墳（墳長約86mの前方後円墳）－墳丘上の樹木伐採と復元整備が進み、和歌山平野や紀伊水道を眺める人気のスポットとなっている。石室は通常非公開だが年2回程度公開している。
ガイダンス 施設等	紀伊風土記の丘資料館（昭和46年(1971)開館）
その他施設	園路、復元竪穴住居、万葉植物園、移築民家など
公園及びガ イダンス施 設等の利用 状況	年間入園者数約20万人（平成23年度。入場無料のため入口の赤外線で自動カウント） ----- 紀伊風土記の丘資料館 開館9:00～16:30（入館は16:00まで）。入館料は大学生90円、一般190円、小・中・高校生、65歳以上、障害者、県内在学の留学生・就学生は無料（証明書の提示が必要）。月曜（月曜日が祝休日の場合は、次の平日）・年末年始（12月29日から1月3日）休館 資料館年間入館者数約2万人(平成23年度) 定員のあるイベントについては、だいたい定員程度の人数が集まる。「ふどきっず」という月1回シリーズの小学生向けの実験考古学・実践民俗学など昔の技術に挑戦する企画は定員40名のところ現在35～37名程度が参加している。
公園及びガ イダンス施 設等の活用 について	資料館の企画展の他、保存修景工事に係る見学会、清掃活動、体験教室（屋内では埴輪づくり、屋外では石包丁で稲刈り、田んぼで発掘体験など）など年間通して主に土日祝日に様々なイベントが開かれている。



大日山35号墳前方部より麓の眺望。墳丘上の樹木伐採と復元整備が進み和歌山平野や紀伊水道を眺められる人気スポット。



前山A2号墳。強化ガラス製の覆屋を設置しており、真上から石室が観察できる。南西方向への眺望が開けており、和田盆地や名草山を眺めるビューポイント。



風土記の丘内移築民家



前山A23号墳

6 与謝野町立古墳公園

所在地：京都府与謝野町

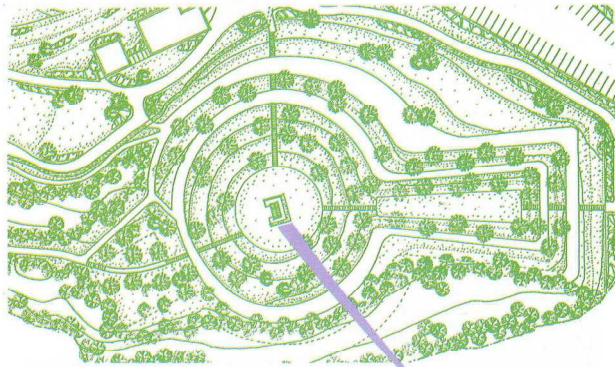
公園内	古墳の概要：蛭子山古墳には3基の古墳があり、1号墳は全長145mの大型前方後円墳で、三段築成の墳丘に埴輪・葺石がある。作山古墳は前方後円墳1基、円墳2基、方墳2基で構成され、墳丘には埴輪・葺石を持つものが多い。	
の	国指定史跡	史跡指定年
古墳	史跡蛭子山古墳(15,969㎡)	昭和5年(1930)
	史跡作山古墳(10,906㎡)	昭和5年(1930)



公園の概要	種別：歴史公園 規模：4.8ha 供用開始：平成4年(1992)11月
整備事業・管理運営主体	整備事業主体－旧加悦町 管理運営主体－与謝野町 ----- 加悦町の町名は平成18年(2006)3月1日より与謝野町に変更され、古墳公園の名称も「加悦町古墳公園」から「与謝野町立古墳公園」に変更になった。
整備について	作山1号墳は副室付組合式石棺の埋葬施設の露出展示を行い、築造当時の姿に復元、作山1号墳・2号墳・3号墳には円筒埴輪が置かれている。蛭子山古墳は密生する樹木を半分に減らし墳丘の形が見えるように整備した。いずれも階段で墳頂へのぼることが出来る。
ガイダンス施設等	古墳公園はにわ資料館（床面積464㎡）
その他施設	復元建物、物産館、いろりの館（江戸時代中期の民家を移築した休憩施設）など
公園及びガイダンス施設等の利用状況	古墳公園 開園9:00～17:00、入園料一般300円、小中学生150円、3～11月は月曜休園、12～2月は月火休園 丹後王国古代まつりには毎年3000人ほどの参加があった。(旧加悦町時代)
公園及びガイダンス施設等の活用について	○昭和40年代後半に地元で蛭子山古墳保存会が組織され、やがて地域全戸加入の組織に発展して、毎年の草刈りや、指定地外に桜を植えて花見をするなど地域住民に親しまれてきた。平成4年の公園開設後は公園入口の物産館の管理運営が地域住民が興した会社によって行われ、また農産物販売所が設立されるなど住民参加の活用が行われていた。 ○「丹後王国古代まつり」が毎年9月末に開催され、当日は公園が無料開放され、古代劇、体験教室、フリーマーケットなどのイベントが行われていた。 ※平成18年の町村合併後は行事や住民参加の物産館運営は行われていない。



旧加悦町丹後王国古代まつり



作山4号墳



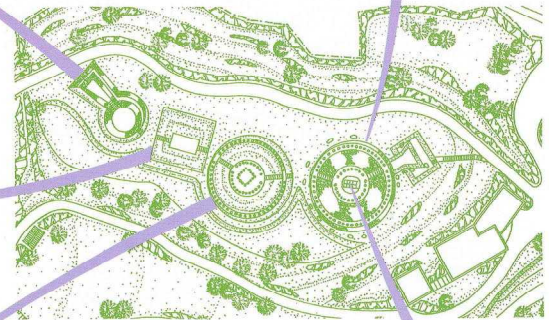
1,600年前の古墳築造当時の姿に復原しました



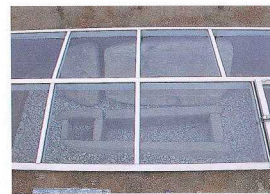
作山1号墳



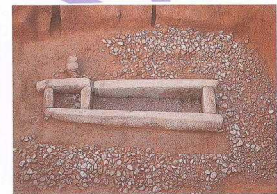
作山3号墳



作山2号墳



作山1号墳の石棺



作山古墳の整備

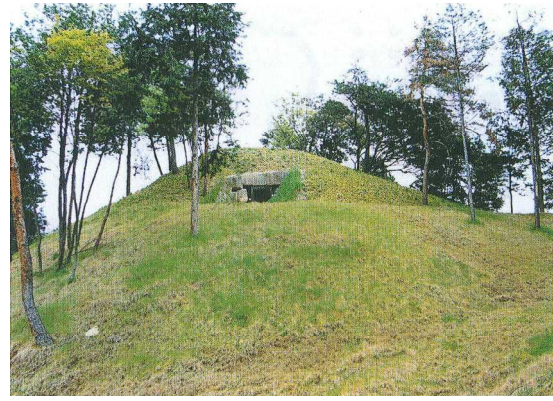


史跡大岩山古墳群航空写真

公園の概要	<p>種別：史跡公園</p> <p>規模：桜生史跡公園（円山古墳・甲山古墳・天王山古墳）約3haの他、富波古墳史跡公園、古富波山古墳史跡公園、大塚山古墳史跡公園、亀塚古墳史跡公園の合計44,392㎡</p>
整備事業・管理運営主体	<p>整備事業主体－旧野洲町・野洲市</p> <p>管理運営主体－野洲市</p> <p>平成16年10月に旧中主町と旧野洲町が合併し野洲市となった。</p>
整備について	<p>破損箇所の修理を中心とする古墳の遺構保存整備を実施。点在する古墳の史跡指定地部分を史跡公園として整備しているが、円山古墳・甲山古墳・天王山古墳は桜生史跡公園として周辺も含めて公園化し、園路・広場・案内所等を整備している。天王山古墳は自然地形を整形した比較的盛土量の少ない前方後円墳で、現状も丘状の地形の高まりのように見える。円山古墳、甲山古墳は横穴式石室の入り口に柵を設け内部を公開している。</p>
ガイダンス施設等	<p>銅鐸博物館（野洲市歴史民俗博物館）（大岩山古墳群から全国有数の銅鐸(高さ134.7cmの日本最大の銅鐸を含む)が出土したことを記念して建設された。復元住居等のある「弥生の森歴史公園」内にある。）</p> <p>案内所（展示内容は、甲山古墳墳丘土層剥ぎ取り展示、遺物複製展示、大岩山古墳群写真パネル展示、古墳紹介ビデオ上映、円山古墳石室映像など。桜生史跡公園内にある。）</p>
その他施設	<p>周辺地形模型露出展示、古墳分布図、総合案内板、古墳解説板、樹木プレート、ベンチ、駐車場など</p> <p>弥生の森体験工房（銅鐸博物館に隣接）</p>
公園及びガイダンス施設等の利用状況	<p>銅鐸博物館</p> <p>開館9:00～17:00（入館は16:30まで）、入館料は大人200円、高大学生150円、小学生100円、月曜休館</p> <p>案内所</p> <p>開館9:00～17:00（入園は16:30まで）、入場無料、月曜（祝日の場合は翌日）休、12月28日～1月4日休館</p>



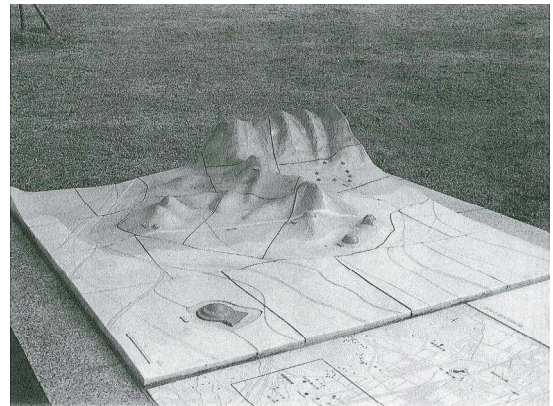
天王山古墳



円山古墳



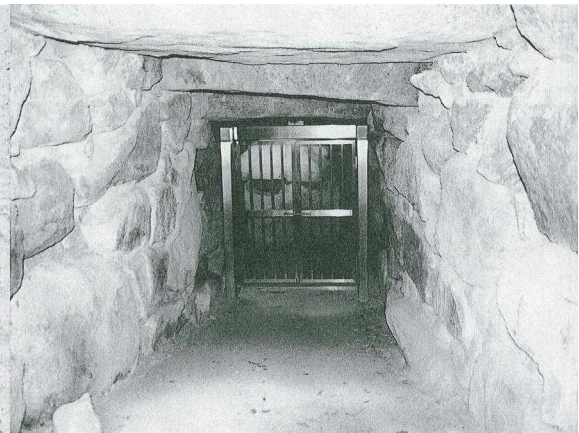
甲山古墳



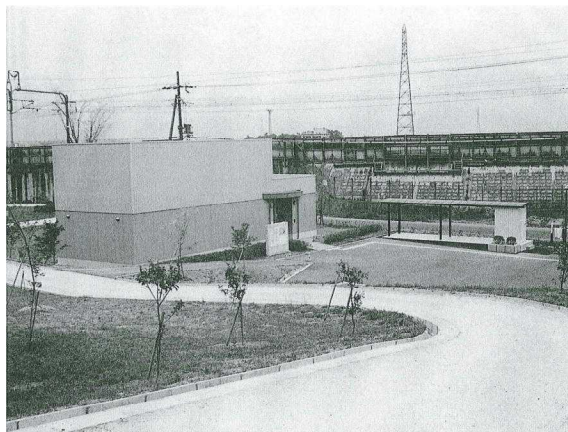
周辺地形模型



甲山古墳入口扉



甲山古墳玄室扉



案内所

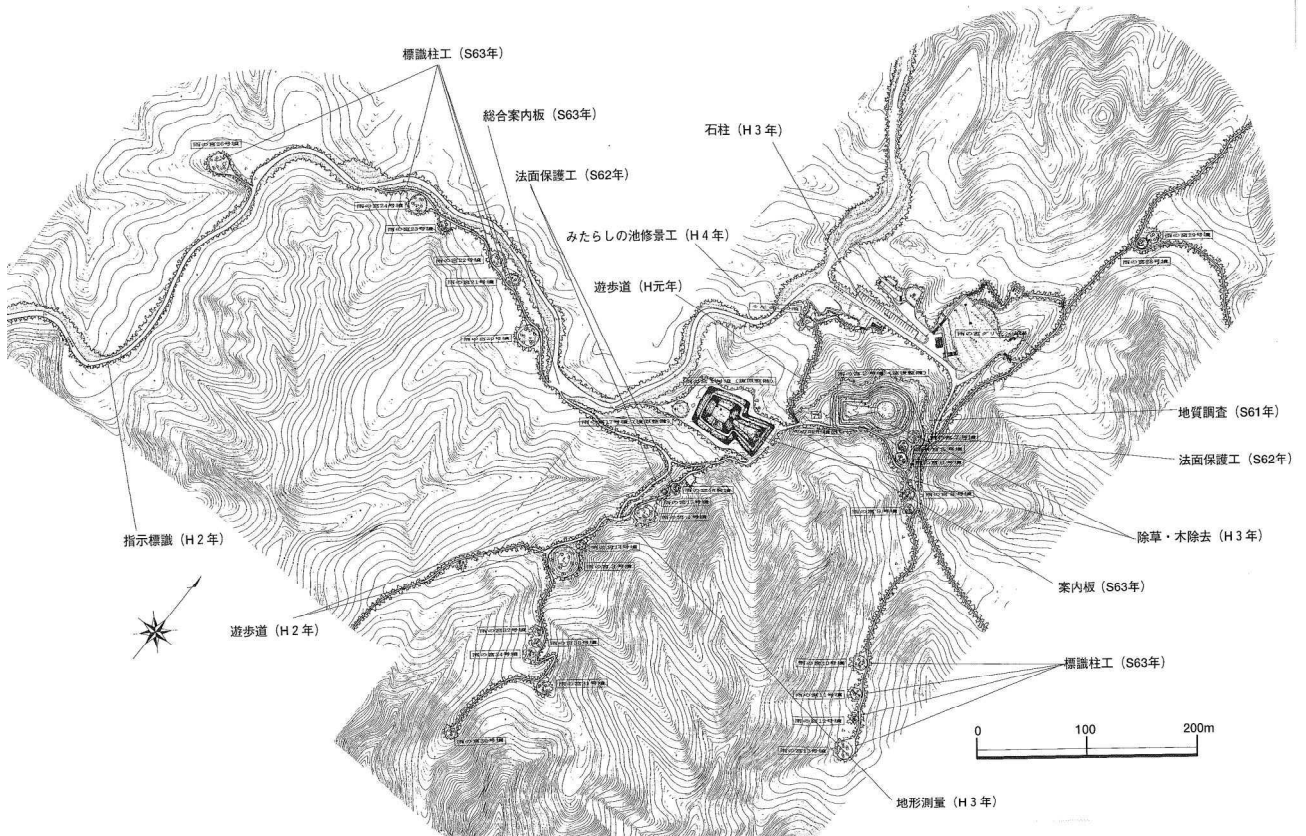


大塚山古墳(東から)_平成7年大岩山古墳群として追加指定された

8 史跡・雨の宮古墳公園

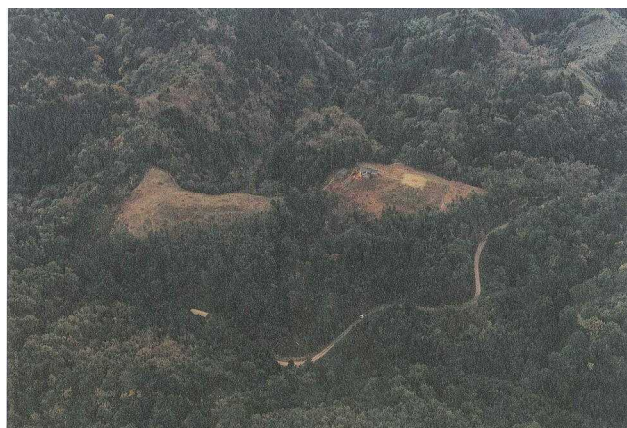
所在地：石川県中能登町

公園内の古墳	古墳の概要：雨の宮古墳群は、眉丈山山頂部に築かれた北陸地方最大級の前方後方墳（1号墳、全長64m・2段築成）と前方後円墳（2号墳、全長74m・3段築成）を中心に、方墳、円墳など全部で36基の古墳が尾根筋に点在している。この地域と、山頂部から南西へ約1km離れた同一稜線上に築かれたテイジンダイラ古墳群の分布する地域の2ヶ所が史跡雨の宮古墳群として指定されている。雨の宮1号墳と雨の宮2号墳は、眼下に広がる邑知平野を掌握していた盟主の古墳とされる。				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 2px;">国指定史跡</td> <td style="width: 50%; padding: 2px;">史跡指定年</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">史跡雨の宮古墳群(79.045㎡)</td> <td style="padding: 2px;">昭和57年(1982)</td> </tr> </table>	国指定史跡	史跡指定年	史跡雨の宮古墳群(79.045㎡)	昭和57年(1982)
国指定史跡	史跡指定年				
史跡雨の宮古墳群(79.045㎡)	昭和57年(1982)				



雨の宮古墳環境整備事業 事業年度別施工位置図

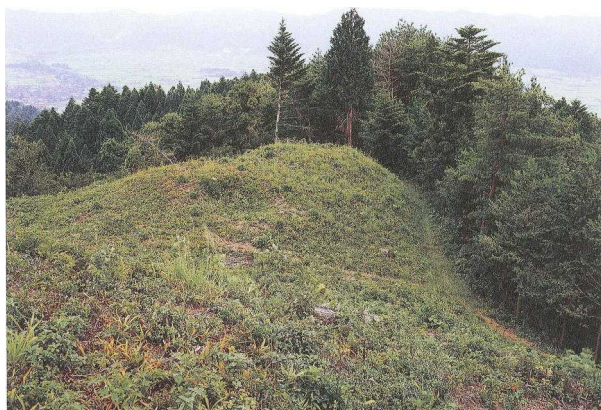
公園の概要	種別：史跡公園 規模：約1ha（史跡指定地のうち1号墳、2号墳を中心に山頂部を公園化）
整備事業・管理運営主体	整備事業主体－旧鹿西町 管理運営主体－中能登町 平成17年に鳥屋町・鹿島町・鹿西町の3町が合併し中能登町となった。
整備について	古墳を取り巻く位置的環境を考慮し、指定地を「古墳・歴史を学習するゾーン」、隣接地を「やすらぎのゾーン」として整備している。 1号墳(前方後方墳)は、オリジナルの葺石を露出展示。2号墳（前方後円墳）は現況の墳丘形態を尊重した修復。発掘調査により墳丘形態が解明できた6基の古墳については盛土による墳丘の復元が行われた。
ガイダンス施設等	雨の宮能登王墓の館（出土品、副葬品や発掘当時の埋葬施設の実物大模型の展示）
その他施設	広場、園路など
公園及びガイダンス施設等の利用状況	雨の宮能登王墓の館 開館10:00～16:00、入館料は小・中・高校生100円、大学生以上200円、4月～11月上旬の金土日曜日のみ開館
公園及びガイダンス施設等の活用について	県内の主要な施設、学校等にリーフレットを送付し、遠足等での利用促進を求めた



雨の宮古墳群_整備前



雨の宮古墳群



雨の宮5.6.7号墳_整備前



雨の宮5.6.7号墳

9 肥後古代の森

所在地：熊本県山鹿市・和水町・菊鹿町

古墳の概要

鹿央(かおう)地区、山鹿(やまが)地区、菊水(きくすい)地区、菊鹿(きくか)地区、菊池(きくち)地区の5つの地区からなる歴史公園。このうち鹿央地区、山鹿地区、菊水地区が古墳を中心とする古墳公園である。



公園の概要	種別：史跡公園（但し鞠智城は都市公園・歴史公園） 規模：整備面積約73ha 供用開始：平成4年度(1992)（当初は鹿央・山鹿・菊水の3地区）
整備事業・管理運営主体	整備事業主体－熊本県 管理運営主体－肥後古代の森協議会事務局（熊本県立装飾古墳館内）
整備について	熊本県北部の菊池川流域に集中する重要遺跡の広域保存と普及活用を目的に山鹿市、鹿央町、菊水町の3地区で整備された歴史公園。全国で11番目の風土記の丘。各地区の中核施設として鹿央地区に熊本県立装飾古墳館を設置。現在は菊鹿・菊池の2地区を加え5つの地区からなる。
ガイダンス施設等	熊本県立装飾古墳館（鹿央地区）、山鹿市立博物館（山鹿地区）、菊水町歴史民俗資料館（菊水地区）、熊本県立装飾古墳館分館、歴史公園鞠智城・温故創生館
公園及びガイダンス施設等の利用状況	装飾古墳館 開館9:30～17:15（入館は16:45まで）、観覧料一般410円、大学生250円、高校生以下は無料、月曜休館 年館来館者数は約3万人（平成22年度）。団体客の場合でも体験イベントは定員まで。だいたい毎回定員は埋まる。
公園及びガイダンス施設等の活用について	装飾古墳館では古代絵画教室や古代食体験など様々な体験教室が行われているが、事前予約が必要で約2ヶ月前受付が始まる。個人の勾玉作りは予約無しでも体験可能。

○鹿央地区

地 区 内 の 古 墳	古墳の概要：岩原古墳群は、前方後円墳の岩原双子塚古墳と十数基の円墳からなる古墳群。中心となる岩原双子塚古墳は、墳長（全長）約107m。 岩原古墳群から遊歩道を下った所にある岩原横穴群は、阿蘇溶結凝灰岩の岩壁に掘られた100基以上の横穴群で、中を見ることがもできる。装飾のある石室を移設復元した横山古墳などもある。
国指定史跡	史跡指定年
史跡岩原古墳群(60,807㎡)	昭和33年(1958)・昭和49(1974)追加・昭和59(1984)追加・平成11年(1999)追加



岩原双子塚古墳



岩原横穴群

整備事業・ 管理運営主 体	整備事業主体－熊本県 管理運営主体－山鹿市
---------------------	--------------------------

○山鹿地区

<p>地 区 内 の 古 墳</p>	<p>古墳の概要：チブサン古墳は、前方後円墳で、その内部に割り石を積み上げて造られた石室があり、その奥に石棺が置かれている。石棺の壁には赤、白、黒の三色で、丸や三角、菱形などの図が描かれており、二つ並んだ円が女性の乳房のように見えることから「チブサン」という名がついたと言われている。</p> <p>保存状態が良好で日本の代表的な装飾古墳の一つ。</p> <p>オブサン古墳は上から見ると丸い形をした円墳だが、内部への入り口の両側に突堤と呼ばれるつきだした部分があり、これが特徴の一つ。古墳の内部は、大きな石を積み上げて造った石室がある。昭和59・60年に行われた発掘調査では、土器や、鉄のやじり、馬につける飾り金具などが発見された。名前は「産(うぶ)さん」によるらしく、安産の神様として信仰されてきた。古墳の内部は、いつでも自由に見学でき、近くには出土品のレプリカと、石室を塞いでいた大きな板石(閉塞石)を展示している。この閉塞石には、明治10年(1877)におこった西南戦争の激闘での弾丸の痕がいくつも残っている。</p>
<p>国指定史跡史跡</p>	<p>史跡指定年</p>
<p>史跡チブサン・オブサン古墳(2,156㎡)</p>	<p>大正11年(1922)・平成11年(1999)追加</p>



整備事業・ 管理運営主 体	整備事業主体－熊本県 管理運営主体－山鹿市
ガイダンス 施設等	(熊本県立装飾古墳館)、山鹿市立博物館、出土文化財管理センター(山鹿市内の発掘調査での出土品を収蔵しており、整理作業と合わせて、常時見学することができる。)
公園及びガ イダンス施 設等の利用 状況	チブサン古墳見学 10:00及び14:00(1日2回)に案内・説明、見学料金は大人100円、小人50円、20名以上で団体料金(大人60円、小人30円) 案内申込は山鹿市立博物館へ※博物館の休館日には見学できない。 ----- 山鹿市立博物館 開館9:00～16:30、入館料は大人210円、小人50円(幼児は無料)、20名以上で団体料金(大人168円、小人42円)、月曜(祝日の場合は翌日)休館 出土文化財管理センター 開館9:00～16:30、入館無料、土・日(祭日・祝日含む)休館



チブサン古墳



チブサン古墳内部



オブサン古墳



オブサン古墳付近展示

○菊水地区（江田船山古墳公園）

地	古墳の概要：江田船山古墳、塚坊主古墳、虚空蔵塚古墳、京塚古墳	
区	江田船山古墳（前方後円墳）は家形石棺を埋葬主体とし、銘文がある銀象嵌銘大刀、	
内	金の冠、耳飾り等が一括して国宝に指定されている。	
の	国指定史跡	史跡指定年
古	史跡江田船山古墳 附 塚坊主古墳・虚空	昭和26年(1951)・昭和60年(1985)追加
墳	蔵塚古墳(16,168㎡)	



和水町古墳祭り



江田船山古墳公園



肥後民家村

整備事業・管理運営主体	整備事業主体－熊本県 管理運営主体－和水町
整備について	菊水地区は清原台地の古墳群を中心に、石人の丘や縄文の森が整備されている。 江田船山古墳は石棺を覆屋で囲い見学できるようになっている。塚坊主古墳（前方後円墳）は石室が残存する程度であったが、後円部の墳丘を復元するとともに石室見学施設を内部に設けている。虚空蔵塚古墳（前方後円墳）、京塚古墳（円墳）は墳丘を復元整備している。
ガイダンス施設等	（熊本県立装飾古墳館）、和水町歴史民俗資料館（先土器時代から古墳時代までの出土品を時代別に展示。縄文・弥生時代の土器や古墳時代の土師器・須恵器、また江田船山古墳出土の冠帽・沓・装身具などの国宝のレプリカを展示している。）
その他施設	肥後民家村、縄文のむら
公園及びガイダンス施設等の利用状況	和水町古墳祭りの参加者・見物客は毎年5千人ほど ----- 和水町歴史民俗資料館 開館9:00～17:00（入館は16:30まで）、入館無料、月曜休館 入館者数は平日で30人前後。バスで団体客が来ることが多い。 肥後民家村 開村9:00～17:00（入村は16:30まで）、月曜休村、毎年8/1は有料コンサートのため入村できない。 肥後民家村の年間利用者数約1.9万人（平成23年度。イベントは含まない。震災の影響や例年行うコンサートをやらなかったため、例年より少し少ない。）
公園及びガイダンス施設等の活用について	○和水町古墳祭り－江田船山古墳が文化財に指定されたのをきっかけに昭和46年から始まった「和水町古墳祭」は、熊本夏の三大火祭りにあげられ、肥後民家村で、8月1日、2日に行われる。この祭りのハイライトは「炎の宴」で、卑弥呼の登場や巨大かがり火への点火式、古代衣装を身にまとい、首飾りや角髪(みずら)を着けた約800人の町民達による松明行列などが繰り広げられる。約3000発の花火大会も行われる。 ○江田船山古墳公園内の肥後民家村では宿泊体験が出来るほか、木工館・ガラス館などの体験施設もある他、毎年8/1に野外ステージで「古墳祭ライブ in なごみ」の有料コンサートが開催される。

10 西都原風土記の丘


所在地：宮崎県西都市


公園内	<p>古墳の概要：西都原古墳群は、東西2.6km南北4.2kmの範囲に300余基の円墳、前方後円墳、方墳、地下式横穴等がある。「柄鏡形類型」と呼ばれる前方後円墳の存在や、地域を統括する首長の墳墓とされる前方後円墳がほぼ同時期に同地域に形成されていることなどが西都原古墳群の大きな特徴である。</p>	
古墳	<p>国指定史跡</p> <p>特別史跡西都原古墳群(585,808.069㎡)</p>	<p>史跡指定年</p> <p>昭和9年(1934)・昭和27年(1952)特史 ・昭和43年(1968)追加・平成14年(2002)追加</p>

特別
史跡公園

西都原古墳群マップ

SAITOBARU BURIAL MOUNDS MAP





お問い合わせ

宮崎県都市公園総合事務所 (0985) 58-5585
 指定管理者 (財) 宮崎県公園協会 (0985) 25-7410
 西都原ガイドセンター (0983) 41-1557
 このはな館

西都原考古博物館 (0983) 43-1354
 西都原古代生活体験館 (0983) 43-5002
 西都市 (0983) 43-1111
 宮崎県西都土木事務所 (0983) 43-2221

公園の概要	種別：県立都市公園（歴史公園） 規模：計画面積68.5ha、供用面積62.1ha 供用開始：昭和42年(1967)4月
整備事業・管理運営主体	整備事業主体－宮崎県 管理運営主体－宮崎県（(財)みやざき公園協会(指定管理者)）
整備について	平成14年度までの大規模整備では、①各古墳の時期的な変遷②古墳群の全体に行き渡るような位置関係③古墳時代の墳墓形式の種類・変遷を一覧できる、などの観点から6基の古墳を対象とした。それぞれの古墳の立地や周辺環境、古墳自体の特徴により多様な整備をおこなっている。 坂元ノ横穴墓群は「横穴墓」と「地下式横穴墓」が融合した珍しい古墳。遺構を保存し、発掘調査を行うことを主目的として平成12年に覆屋（おおいや）が建設され、発掘された状態を見学することができる。屋根には建物内部の断熱と自然景観との調和を図るために「緑化システム」が採用されている。 111号墳は円墳の下に「4号地下式横穴墓」とよばれる九州独特の墓を有しており、内部をカメラの遠隔操作で見学することができる。
ガイダンス施設等	西都原考古博物館（平成16年(2004)4月に開館。「常新展示（常に新しい情報の展示）」を理念とした「考古博物館エリア」と、蓄積された情報を検証する「考古学研究所エリア」から成る）、ガイダンスセンターこのはな館（平成15年(2003)10月に開館した西都市の大型総合案内拠点施設。西都の歴史や観光地を映像などにより紹介するガイダンスフロアには市内から出土した文化財も展示）
その他施設	古代生活体験館（平成9年(1997)7月に開館。西都原古墳群から出土した「子持家形埴輪」をモチーフとして建てられた。古代人の生活を実際に体験できる講座がある。常設講座として勾玉作りや土器作り、火起こし体験などがある（別途制作費が必要。）、管理事務所、レストラン、サクラ（約2000本）、コスモス（約8ha）、駐車場など
公園及びガイダンス施設等の利用状況	特別史跡西都原古墳群への観光客入込み数93万人（平成21年度） ----- 西都原考古博物館 開館10:00～18:00（展示室入室は17:30まで）、入館無料、月曜（祝日の場合その翌日）・休日の翌日・年末年始（12/28～1/4）休館 ガイダンスセンターこのはな館 開館9:00～17:00（レストランは11:00～15:00）、入館無料、月曜（祝日の場合その翌日）休館 このはな館入館者数約15.5万人（平成21年度） 古代生活体験館 開館10:00～18:00（体験申込みは16:30まで）、入館無料（体験は有料）、月曜（祝日の場合はその翌日）休館

公園及びガイダンス施設等の活用について

考古博物館では展示の他、各種講座、シンポジウム等も行われる



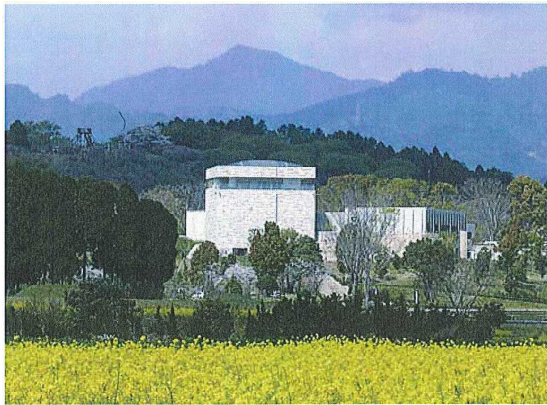
171号墳
西都原古墳群唯一の方墳で女狭穂塚古墳の陪冢といわれる。後方の森は女狭穂塚古墳



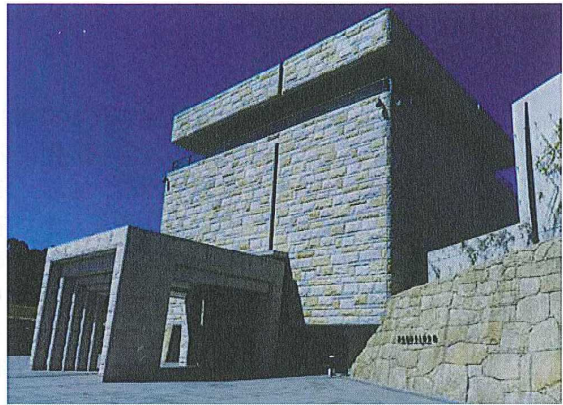
酒元ノ上横穴墓群覆屋(見学施設)内部



古代生活館



考古博物館



鬼の窟古墳



11 生目古墳群史跡公園

所在地：宮崎県宮崎市

公園内の古墳	古墳の概要：生目古墳群は51基の古墳から成り、公園内には前方後円墳8基、円墳25基が確認されている。長さ143m高さ12.7mの3号墳は古墳時代前期では九州最大の前方後円墳である。	
	国指定史跡	史跡指定年
	史跡生目古墳群（142,982㎡）	昭和18年(1943) 平成19年(2007)追加



公園の概要	種別：史跡公園 規模：22ha 供用開始：平成20年(2008)4月
整備事業・管理運営主体	整備事業主体－宮崎市（市制70周年記念事業として） 管理運営主体－宮崎市教育委員会文化財課（古墳に関すること）、宮崎市都市整備部公園緑地課（施設の利用に関すること）
整備について	5号墳は葺石をふき当時の姿を復元。3号墳は登ることが出来る。史跡整備に伴う発掘調査が現在も行われており、平日であれば調査風景を間近に見ることができる。
ガイダンス施設等	生目の杜遊古館（埋蔵文化財センター展示室、研修室、収蔵庫他。公園隣接地にある。平成21年(2009)4月より一般公開）
その他施設	芝生広場、展望台、駐車場など
公園及びガイダンス施設等の利用状況	生目の杜遊古館 開館9:00～16:30、入館無料、月曜休館。市内の児童・学生や社会教育団体などの宿泊を受け入れており、1泊500円（18歳未満は無料）。 年間利用者数は埋文センター約2.2万人、体験学習館約1.8万人、宿泊利用団体は69、古墳群を見学する際ボランティアガイドを利用した人は約450人。遊古館クラブは小学生166人が入部して活動。（いずれも平成23年度）
公園及びガイダンス施設等の活用について	○古代文化体験、各種創作活動、調理実習、伝統文化体験、講演・講習会、ウォークラリー、古墳群見学、自然・天体観測、スポーツ体験、文化財めぐりなど ○埋蔵文化財センターの遺物整理作業も展示システムとして組み込まれており、見学することができる。 ○遊古館クラブ：生目古墳群を中心とした歴史事象に関する学習と、生目の杜遊古館の体験学習プログラムや事業の体験を通して、宮崎市内の歴史に関する理解と認識を深め、遊古館事業をサポートしていくクラブ。古代体験や考古学に興味のある小・中学生を対象としており、クラブ員相互の親睦を図ることも目的の一つとしている。入部案内は各学校を通して行う。 ○遊古会：生目古墳群及び遊古館展示室のガイドを行うボランティアの団体。生目古墳群史跡公園内を見学者と一緒に歩きながら、古墳の特徴を解説している（土日祝日に実施、1日2回）。また、遊古館の来館者には埋蔵文化財センター展示室の案内もしている。 ○出前授業：学校から申し込みを受けると考古学・体験学習の専門家を派遣し、郷土の歴史素材を教材化して出前授業を行う。授業の単位のどの段階にも対応できる。



生目古墳群航空写真



生目5号墳と5号墳出土埴輪



生目21号墳発掘調査風景

12 さきたま古墳公園

所在地：埼玉県行田市

公園内	古墳の概要：埼玉古墳群は、現在33基が確認されている（消失・半壊を含む）。東西500m南北800mの中によく原形を残して群集する8基の大型の前方後円墳、1基の円墳が見学できる。	
の	著名な稲荷山古墳出土の銘文のある金錯銘鉄剣は国宝に指定されている。	
古墳	国指定史跡	史跡指定年
	史跡埼玉古墳群(222,745.2㎡)	昭和13年(1938)・平成元年(1989)追加



公園の概要	種別：県営都市公園（歴史公園） 規模：さきたま風土記の丘 さきたま古墳公園（都市計画決定97.0ha/開設37.4ha） 供用開始：昭和42年(1967)
整備事業・管理運営主体	整備事業主体—埼玉県 管理運営主体—埼玉県（埼玉県立さきたま史跡の博物館） ----- 平成17(2005)年度に策定した古墳群全体の保存・整備や活用を図るための基本計画では、「古墳群の恒久的な保存を図る」ことを前提にして、「安全で快適な歴史空間を創造する」といった目標を設定している。
整備について	さきたま古墳群と調和のとれた観賞・保護、及び散策を目的として整備を進めている。 丸墓山古墳と稲荷山古墳はのぼることが出来る。将軍山古墳は、墳丘や濠の復原とともに、石室の内部が見学できる将軍山古墳展示館を設置。
ガイドンス施設等	埼玉県立さきたま史跡の博物館（さきたま資料館（昭和44年(1969)10月開館）から平成18年4月に改称）、将軍山古墳展示館（平成9年(1997)開館）
その他施設	移築民家、植物園、休憩舎、芝生広場、駐車場など。 行田市はにわの館（(財)行田市産業・文化・スポーツいきいき財団）
公園及びガイドンス施設等の利用状況	さきたま火祭りの平成22年の来場者は約10万人 ----- 埼玉県立さきたま史跡の博物館 開館9:00～16:30（入館は16:00まで）、7/1～1/31は9:00～17:00（入館は16:30まで）、観覧料一般200円、高校生・大学生100円、中学生以下と65歳以上は無料。年間観覧券は一般1200円、高校生・大学生は600円。 月曜休館。 年間入館者数約10万人、学校教育活動における利用数204校（児童生徒の参加者数3486人）、ボランティアの活動976人（いずれも平成22年度）
公園及びガイドンス施設等の活用について	○博物館では国宝展示室にて副葬品の実物を展示。企画展示室も2～3ヶ月ごとに展示替えがある。毎月古代体験や講座、ガイドツアーなど様々なイベントが行われている。 ○住民主体で毎年春にさきたま火祭りが行われる。（さきたま火祭り実行委員会主催。音楽に合わせて古代衣装を身につけた地元の人々約300人が、ニニギの命、コノハナサクヤ姫を先頭に松明をかかげての大行列、そして産屋炎上、続いて200人余が松明を持ち、丸墓山、稲荷山から降りてくる御神火下りなど。郷土芸能や物産展、フリーマーケットなどのイベントも開催。）



丸墓山古墳—日本最大の円墳。墳頂からは公園内の整備された古墳や市街地も遠望出来る。



稲荷山古墳—ここから出土した国宝の鉄剣はさきたま歴史の博物館に常時展示されている。墳頂に登ることができる。



東屋(稲荷山古墳北)—休憩場所として園内各所に整備されている。



芝生広場—さきたま火祭りもここで行われる。広場内の円形部分は古墳跡。



将軍山古墳—復元された墳丘に埴輪の複製品を並べている。登ることはできない。



将軍山古墳展示館



将軍山古墳展示館では横穴式石室を間近にみる事ができる。

13 上毛野はにわの里公園

所在地：群馬県高崎市

公園内 の古墳	古墳の概要：保渡田古墳群は井出二子山古墳、八幡塚古墳、薬師塚古墳の3基からなる。いずれも墳長約100m、広大な二重の濠を巡らし、多量の埴輪を立て並べた前方後円墳で、三代にわたって継続して築造された。濠内の対称位置に4基の陪冢を有するのはこの古墳群において見られる特徴である。八幡塚古墳・井出二子山古墳を中心とする地域は「上毛野はにわの里公園」として整備されている。	
	国指定史跡	史跡指定年
	史跡保渡田古墳群(62,713㎡)	昭和60年(1985)・平成15年(2003)追加



公園の概要	種別：都市公園・特殊公園（歴史公園） 規模：12.9ha
整備事業・管理運営主体	整備事業主体－高崎市 管理運営主体－高崎市（公園緑地課）
整備について	八幡塚古墳は、墳丘部や内濠のなかにある中島の法面には葺石を施し、後円部内には石棺展示施設も設置している。石棺の設置された位置が墳頂からかなり深いレベルであるため上部よりガラス越しにのぞき込む見学方法は不合理で、上段墳丘を再現する際に見学施設を内包させ、内部に降りて見学する方式を採用した。また、内堤上には54体の人物・動物埴輪等が配置された「形象埴輪配列区」があり、墳頂部や中島等に円筒埴輪が巡らされている。約6000本の円筒埴輪は市民の手で復元された。 井出二子山古墳は発掘前の古墳の形状をできるだけ変えない手法で整備された。
ガイダンス施設等	かみつけの里博物館（平成10年開館。高崎市等広域市町村圏振興整備組合が設立。博物館利用に関する申請等は高崎市公園緑地課へ）
その他施設	はにわ工房、レストラン、群馬県立土屋文明記念文学館、駐車場など
公園及びガイダンス施設等の利用状況	かみつけの里博物館 開館9:30～17:00（入館は16:30まで）、大人200円、大学生・高校生100円、中学生以下と65歳以上は無料、火曜休館 年間入館者数約2.6万人（平成21年度。写真展開催のため例年より若干入館者数増加）
公園及びガイダンス施設等の活用について	○毎年秋にかみつけ古墳祭り・コスモス祭りを開催。研究成果を踏まえた王の儀式の再現劇がボランティアスタッフにより上演される。 ○地元の旧群馬町地域を中心とした住民ボランティアグループがコスモスの種30キロを古墳の内濠と外濠にまき、育ててきた。



かみつけ古墳祭り



かみつけ古墳祭り